

ほっかいどう

私学振興

だより

No 30

2024年(令和6年)3月

北海道私立中学高等学校協会

目 次

● 挨拶	1
● 私学振興に関する懇話会 全道大会	2
● 私学振興全国大会	10
● 道・道議会・国への要望活動	13
● 定例総会・理事会・各部会の活動	16
● 支部の声	24
● 理事長・理事・校長研修会	32
● 私立高等学校周年行事記念式典	34
● 北海道社会貢献賞（私学教育功績者）	36
● 北海道私立中学高等学校保護者会連合会	38
● 北海道私立高等学校事務長会	39
● 北海道私学団体連合会	40
● 道教委情報ボックス	41
● 道学事課からのお知らせ	42
● 私学情報の発信	44
● 私学関係団体からのお知らせ	46
● 令和5年度・令和6年度の動き	48



私学教育が未来を拓く

北海道私立中学高等学校協会
会長 西岡 憲廣

平素から私学教育の振興・発展に多大なご理解、ご協力をいただき厚くお礼を申し上げます。

公教育の一躍を担う私立学校は、建学の精神に基づき教育理念、教育方針を定め、それぞれの学校の特色を活かすとともに、私学ならではの独自性や柔軟性などを十分発揮し、時代の変化に的確に対応して取り組むことで、日本の学校教育に大きく貢献してきました。

我が国では、昨年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、北海道も国内外からの観光客が大幅に増加するなど社会経済活動が活発化しており、また、学校の様々な対応も変化している一方で、GIGAスクール構想の実現に向けたICT環境の整備や教育のデジタル化による学びの充実、教員の資質の向上や負担軽減などの課題への対応のほか、長引く原油価格・物価高騰の影響などにより私立学校を取り巻く環境は一段と厳しい状況にあります。

また、少子化に伴う就学人口の減少やグローバル化、情報化など社会構造が大きく変化する中、その変化に柔軟な対応ができる資質や能力を身につけた人材の育成がより一層求められています。

私立学校としては、私学助成の改善などにより私学経営の安定を図るとともに、北海道、そして日本の未来を担う子供たちに対し、これまで以上に創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開し、社会が求める多様な人材の育成に努めていくことが必要と考えます。

当協会では、私学経営の健全化、公私間格差の是正、保護者負担の軽減、教員の資質向上などを図るため、「私学予算の充実と公私間の納付金負担格差の是正」「中卒者の減少に伴う公立高校の定員調整」「魅力ある学校づくりに向けた研修の充実」を重点項目として位置づけ、様々な事業や要望活動に取り組んで参りました。

また、本年1月10日には、北海道私学団体連合会加盟10団体の役員、加盟校の代表者や保護者などの方々が一堂に会して「私学振興に関する懇話会全道大会」を開催し、多くの私学関係者の皆様と私学教育の充実・発展と経営の安定などに取り組む決意をしたところです。

当協会といたしましては、引き続き、私学の使命と私学教育の充実向上に向けて結束するとともに、公教育の将来に向かって着実に前進して参りますので、今後とも皆様のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

私学振興に関する懇話会 全道大会



北海道私学団体連合会(西岡憲廣議長)主催の「令和5年度私学振興に関する懇話会全道大会」が、今年度は1月10日(水)札幌ガーデンパレスにおいて開催された。

この懇話会は、北海道私学団体連合会加盟10団体の役員をはじめ教職員や保護者などが一堂に会し、教育水準の充実向上と経営の安定に取り組む決意を新たにするとともに、私学教育に理解を示し、本道の私学振興に積極的に取り組んでいただいている国会議員、知事、道議会議員の皆様をご来賓としてお招きし、私学への公的助成や支援施策の充実に一層のご理解とご協力を求めるために開催している。今年度は新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことから、参加人数の制限を撤廃したため、全道から349名の参加となった。

当日は、中村裕之衆議院議員、和田義明衆議院議員、鈴木直道北海道知事、富原亮北海道議会議員、田中芳憲北海道議会教育振興議員連盟会長から、私学の支援に対する力強い応援のご挨拶をいただくとともに、北海道議会教育振興議員連盟役員の皆様に応援に駆けつけていただいた。

主催者及び来賓のご挨拶は次のとおり。

【主催者代表 西岡憲廣議長】

今年、新年早々、能登半島の地震、そしてまた羽田空港の飛行機の事故で波乱の辰年

の幕開けということになりますが、皆様方はお気持ちを新たにして新年を迎えたことと思います。

また、本日は年始めの何かとお忙しい中、全道各地から多くの皆様にご参加いただき、全道大会が盛大に開催できますことを大変心強く思っております。

本日の懇話会には、ご来賓として衆議院議員・中村様はじめ国会議員の皆様、そして鈴木北海道知事、道議会議員長の富原様はじめ道議会議員の皆様にご参列をいただいております。大変心強く思っております。

ご来賓の皆様には、日頃から私学に対する公的助成、教育費負担の公私間格差是正、多くの私学支援対策に取り組んでいただいておりますことに心から感謝を申し上げます。どうもありがとうございます。

さて、本道の私学はそれぞれの建学の精神の下、時代の進展と社会の要請に応じて特色ある教育を展開し、教育文化の向上はもとより北海道の発展に大きく貢献してきたものと考えております。

一方で、私学を取り巻く環境は、急速に進む少子化や人口減少に加え、ICT環境の整備や教員の資質向上・負担軽減などの課題のほか、エネルギー価格の上昇を含む昨今の物価



私学振興に関する懇話会 全道大会

高騰により一段と厳しさを増しております。我々といたしましては、このような困難な課題に立ち向かいながら、公教育の一翼を担う私学人として北海道そして日本の将来を担う子供たちをしっかり支え育てていくという使命を担っていかなければなりません。

ご来賓の皆様におかれましては、保護者への助成制度の拡充や経常費助成制度等の充実、耐震化等の施設設備への支援の拡充などを通じて、我々私学関係者が安定した経営基盤の下に特色のある教育を行えるよう、さらなるお力添えをお願いする次第であります。

本日ご参集いただきました関係者の皆様には、私学教育の充実向上に向けて一層の結束をお願いいたしますとともに、新たな時代に立ち向かう強い気概を持って未来に進んでいていただきたいと存じます。

終わりに、本年は皆様にとりまして実り多い1年となりますよう心よりご祈念申し上げ、開会に当たっての挨拶といたします。本日は、誠にありがとうございました。

【鈴木直道 北海道知事】

北海道知事の鈴木でございます。私学振興に関する懇話会全道大会、こういった形で多くの方がご出席で開催というのは久しぶりだろうと思います。盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。



西岡議長をはじめとするご出席の皆様には、日頃から本道教育の充実に多大なるご尽力をいただいておりますこと、この場をお借りして心から感謝申し上げます。

先ほど西岡議長からもお話がございましたが、年初め、能登半島で地震が発生いたしました。現在まで203名もの貴い命が失われたわけでございます。心から哀悼の意を表するとともに、被害に遭われた皆様に関心をお見舞いを申し上げます。

道では、先週の5日、金曜日になりますけれ

ども、能登半島地震被災地支援本部を立ち上げたところでございます。北海道は、胆振東部地震をはじめとした様々な災害に全国の皆様のご理解、ご協力、ご支援をいただきながら今日があると考えております。

一方で、どうしても隣接県が中心となってこの支援に当たるという状況もあることから、北海道の支援というのは比較的優先順位が低い状況にありますが、今の能登半島の状況を考えますと、これからさらに寒くなる中で、我々、胆振東部地震発生の際は厳冬期における対応などを皆さんとともに議論をしてきたところでありまして、馳知事からも北海道からの支援を要請する旨のお願いがございまして、道としては直ちに医師、保健師など保健医療調整本部などへの支援ということでDHEATのメンバー5名を派遣をするとともに、避難所の運営、これは輪島市になりますけれども、被害が甚大な状況でございまして、そちらに20名の職員の派遣を行っており、さらには、調整を担うスタッフが不足していることから、リエゾンとして3名の派遣を行っているところであります。さらに、道内の災害派遣医療チームDMATにつきましては道内医療機関から18のチームが派遣を決定し、あらゆる分野でできる支援を最大限行うという姿勢のもとで取組を行っているところでございます。

本日お集まりの皆様におかれましても、どうかご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、馳知事からは北海道におけるこうした多くの道民の皆様からのご支援に対し感謝の言葉があったことも皆様にお伝え申し上げたいと思います。

さて、昨年を振り返りますと、新型コロナについては5月に5類に移行するという大きな節目を迎えたところでございます。学校生活におきましても様々な行事が再開して、コロナ禍前の日常を少しずつ取り戻してきたところであります。この間、本日お集まりの皆様に関心3年以上の長きにわたってコロナ対策、大変なご協力をいただいております。このことに改めて皆様に深く感謝申し上げます。

社会経済活動が活発化する一方で、物価高騰の影響の長期化など、道民の皆様の暮らし、

私学振興に関する懇話会 全道大会

そして事業者の方々の経営環境が厳しい状況に置かれております。道では、子育て世帯への支援をはじめとした総額約725億円となる物価高騰等経済対策を講じているところであります。総力を挙げて今後とも取組を進めてまいりたいと考えております。

また、次世代半導体製造拠点の立地、日本最大級のデータセンターの建設決定、さらには豊富な再生可能エネルギーの活用が進むなど、脱炭素化、デジタル化といったこれからの社会において子供たちが北海道の未来に希望を持ち、活躍することができる場、こういったものを一層広げていく必要があると考えております。

新たな年、今申し上げたような歩みをさらに加速をし、国内、世界から活力を呼び込み、地域の力を高めていくとともに、安心して住み続けることのできる地域づくりを道としてはしっかりと進めていきたいと考えています。

これからますます変化の激しい時代であります。豊かな人生を切り拓く力が子供たちに備わっていく、このことがとても重要になります。道としても学校、家庭、地域とのつながりを一層深めながら、児童生徒に対するきめ細かな指導体制の整備などに取り組んでまいりますので、どうか引き続きの皆様のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本道の私学のますますの発展並びに、本年が皆様にとって希望に満ちたすばらしい年となりますことを祈念申し上げ、簡単ではございますけれどもご挨拶に代えさせていただきます。本年も、皆様、よろしくようお願い申し上げます。

【中村裕之 衆議院議員】

皆さん、こんにちは。祝辞の前に、私からも、年明けの災害や事故によって被災された皆様にお悔やみとお見舞いを申し上げます。

新年明けましておめでとうございます。ご紹介いただきました衆議院議員の中村裕之でございます。

昨年10月まで自民党の文部科学部会長を務めておりました。私学の関係者の皆さんには、子供たちの教育に情熱を傾けていただき、建学の精神にのっとり特色ある教育を進めてい

らっしゃることに心から敬意と感謝を申し上げます。ありがとうございます。

私の妻も娘も息子も私学にお世話になりましたし、本当に大きな貢献をされていると思います。私自身もそうですから、私学の役割は非常に大きいと思っています。

文部科学省で政務官もさせていただき、部会長もさせていただきましたけれども、文部科学省というのは皆さんご存じのとおり、出先のない役所なのです。例えば北海道経済産業局、北海道開発局、北海道厚生局とかいろんな出先があるのですけれども、文部科学省は財務省と協議をして全ての予算取りをするという役所でありまして、もう何十年も財務省にやられてきているのです。ほんとにかわいそうなぐらい財務省の査定を受けてきています。私が政務官の時代にもあなた方が関わらなかったら日本中の子供が不幸になる。闘えということを随分言ってきましたけれども、その後、萩生田文部科学大臣も、闘う文部科学省にしなきゃ駄目だ、中村さん、分かるでしょというような話もしていましたけれども、大分闘うようにはなってきたなと思っています。

これからしっかりそういったところを改革していきたいと思っていますけれども、私学関係も私学助成はじめ施設関係も含めてそれなりにプラスの予算になっていると思いますが、今、社会が求めているのは理系人材ですから、私が文部科学部会長の頃に令和4年度の補正予算で成長分野への学部転換のための大学・専門学校への基金をつくりました。3,000億円の基金であります。今、文系8割、理系2割の学部全体の構成を、10年間かけて5割、5割に転換をしていくということでもあります。鈴木知事からもお話がありましたとおり、半導体、データセンター、AI、様々な分野で理系人材が求められているところでありまして、道内私学からは北海道科学大学が1年目にその基金から助成を受けていますし、今、北海学園大学も申請をされて



私学振興に関する懇話会 全道大会

います。こういったことをやりながら、世の中に求められる大学教育を進めていただければと思います。

加えて、大学だけ学部転換しても、高校生にそういう分野に興味を持っていただかなければならないということで、新たな予算の中に公私併せて5校に1校、DXを推進するためのモデル校を設置すると。定額1,000万円の予算がその学校に行くわけです。そこでデジタル人材としての基礎的な知識を学んで興味・関心を持っていただいて、そして大学に進んで、デジタル人材として活躍をしていただくと。そういう流れをつくるための予算であります。

専門学校については、専門職大学をはじめ様々な展開があると思いますけれども、そうした取組を通じて、今まで北海道の理系の学生の7割、8割が道外に就職をしていたという流れを、道内でしっかりと活躍をしていただける、そういった産業の構築等含めてやっていこうと思っています。

幼稚園についても、手のかかる子が2人いると加算がつくという話があって、そういったところを、近藤会長が上京されて、1人からでも出るようにしていただきたいという話があって、それを前向きに転換する方針を決めさせていただきました。

そういったことで、徐々に皆さんの要望が叶うようにはしています。岸田総理もいいことは言っているのです。人への投資をやりたいと言った。これは絶対大事なのです。人への投資というのは乗数効果が高く、必ず返ってくるものが大きいということは立証されています。子供たちの教育です。そして、異次元の少子化対策をしたいと言った。これもこれからの10年間でもう一度ベビーブームを起こさなければ、次の10年になると出産適齢期の方々の人口が減ってしまいますので、間に合わなくなってしまうということで、岸田総理の言っていることは正しい判断に基づく発言です。

しかし、総理大臣といえども、総理大臣がやりたいことをやらせない勢力というのが政治の場にも官僚の中にもあって、ほんとに私は苦勞しているところでありまして、そういったところを打

破しながらやっていかなければならないと思っています。

例えば私学助成率というのは最高29%ありましたが、今9%ぐらいまで落ちています。それだけ財務省が査定をしてきたということでもあります。国立大学法人については運営費交付金を出していますが、2004年から見ると年間1,500億円減っています。こうやって人への投資を怠ってきた我が国であります。それを岸田さんはちゃんとやろうよというふうに言ったのだけれども、それでも簡単にいかない今の政治と行政、永田町と霞が関の実態があるわけでありまして、そういったところと闘っているところでもあります。何とかまた教育のほうにしっかりと予算をつけて、子供たちが将来に向かって自己実現ができるような、そういった形にしながら、国にも貢献していただけるようにしていきたいと思っています。

日本の財政は、何も心配ありませんから。新しい1万円札をいくらでも刷れますので、全く問題ないです。借金は将来世代のものになるというけれど、貸しているのは国民だから、国民の資産なのです。資産も受け継がれるので、将来世代の負担になんかなりません。そういった財務省によるまやかさを信じないで、しっかりとした投資をしながら、日本という国がまた世界の中で尊敬され、そして国民が豊かになるような、そんな社会を築いていくように精いっぱい努力をしてみたいです。皆様にもぜひそういったことにも関心を寄せていただいて、子供たちにも素晴らしい教育をしていただくことをお願い申し上げる次第です。

私、本大会の最後までいて、後ほど決議をいただくことになっています。文科省とともにしっかりと闘って、これからの予算の確保に取り組んでまいりたいと思います。

もう一つだけ。大阪のほうで今、私学も含めて教育無償化というのをやるのだと。63万円という私学の授業料の上限か何か決めてね。全く私学の特色ある教育というのを打ち消すような話です。こんなことをやっていては、伸び伸びとした子供たちの教育をすることができなくなります。全ての学校を公立化するような流れに

私学振興に関する懇話会 全道大会

は我々反対しています。ただ、教育負担をできるだけ減らすように私たちも頑張っていますので、そういったところにも後押しをいただければと思います。

本日の全道懇話会が有意義なものになるように、私も精いっぱい取り組んでまいりますので、今後ともご指導賜りますことをお願い申し上げます、皆様のご健勝と各学校の発展をお祈り申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。誠にありがとうございます。

【和田義明 衆議院議員】

ご来場の皆様、改めまして、こんにちは。いつもお世話になっております。衆議院議員の和田でございます。



私からも冒頭、能登半島の地震におきまして犠牲になられた全ての方々に心から哀悼の誠を捧げますとともに、一日も早く被災された方々が平静を取り戻しますよう心からお祈り申し上げたいと思います。

また、昨今大変お騒がせをしております自民党清和政策研究会の政治資金の問題におきましては皆様方に多大なるご心配をおかけしておりますこと、謹んで心よりおわびを申し上げます。私自身しっかりとこの改革の先頭に立って、皆様方の信頼を一步一步取り戻してまいりたいと思います。引き続きの厳しいご指導、ご鞭撻を賜りますよう心からお願いを申し上げます。

さて、本日は私学振興に関する懇話会にお招きをいただきまして、誠にありがとうございます。西岡議長はじめ本日お集まりの私学関係者の皆様方におかれましては、子供・若者たちの教育、そして人間形成に多大なるご尽力、ご努力を賜っておりますこと、そして、国家の礎はまさに人間でありますけれども、その人間づくりに本当に日々頑張ってくださいありがとうございますことに心から感謝と敬意を表する次第でございます。

先ほど席に座らせていただきまして、決議文を拝読させていただきました。この公私間格差の

是正、古くて、もうずっと課題になっているものでございますけれども、少しずつ少しずつ私学助成というのは増えてはいるものの、桁が足りない。2桁ぐらい足りないかもしれません。こういった状況がずっと続いていることは大変忸怩たる思いでございます、今年も1年間、この皆様方にご協力いただき決議、しっかりと成功に向けて頑張りたいと思います。

また、学校の設備のところでは、今年の夏は大変暑うございました。北海道の夏は、内地の夏ともう変わらないと言っても過言ではございません。クーラーのところは、文科省の予算はしっかりとついておりますし、北海道庁も頑張っていると言っておりますので、先生方、そして生徒・学生の皆さんがよい環境で勉強に集中できるよう、しっかりとこの点もお支えを申し上げたいと思っております。

私の選挙区の千歳にラピダスが誘致されました。大変おめでたいこと、うれしいことである一方で、このラピダスのプロジェクトを支える創成期のエンジニアの方々というのは20年ぐらい前に日本の半導体産業を支えた方々で、おおむね50代といったところでございます。こういった方々が世界に散らばっていたわけでございますけれども、千歳に帰ってきて、これからまさに世界最先端の半導体を作るというようなことになっているわけでございますけれども、問題は、その次のエンジニアをどうするかだと思っております。やはりこの北海道から人を育成して、そして北海道に来てくれた世界最先端の半導体工場に研究開発、製造に携わっていただく、これこそがラピダスを誘致した価値そのものであると思っております。

いろいろと企業誘致をこれからも行っていきましょう、進んでいくでしょう。でも大事なことは、北海道にいかにして富を残すか、そして頭脳、知を残していくか。これが何よりも大事だと思っております、そこには皆様方に引き続きご尽力を賜り、そして人材育成をやっていかなければいけないと思っております。

中村先生からも理系人材の重要性について触れさせていただきました。私が商社マン時代に5年間住んでいたインドでは、子供たちの憧れの

私学振興に関する懇話会 全道大会

職業というのは、ほかでもないエンジニアでございます。やっぱりエンジニアが一番頭がいい、そして稼げる、そういったイメージを彼らは持っているようでございます。日本では理系人材がまだまだ少ない。そして、半導体、ICT、DX、GX、再生可能エネルギー、こういったところの人材がこれからどんどんどんどん必要になってまいりますし、北海道はまさにこれらのアイテムの日本におけるリーダーになっていくことは間違いないわけでございます。私どももしっかりと私学教育を応援させていただきますので、皆様方におかれましては、どうか引き続き人材育成、教育、とりわけ理系の分野におきまして多大なるご尽力を賜りますよう心からお願いを申し上げます次第でございます。

結びになりますけれども、北海道の私学のますますのご隆盛、そして、日頃、人間づくりのため、教育のためにご尽力を賜っております先生方のますますのご活躍とご健勝を心からお祈りしまして、私のご挨拶に代えさせていただきます。いつも本当にありがとうございます。

【富原亮 北海道議会議長】

北海道議会の富原でございます。今日は、関係議員ともどもお招きをいただきました。ありがとうございます。

それでは、私学振興に関する懇話会全道大会の開催に当たりまして、北海道議회를代表して一言ご挨拶を申し上げます。

新年早々、能登地方を震源とする地震、そして羽田空港における航空機の衝突事故など災害、事故が立て続けに発生いたしました。無念にも貴い命を失われた方々に対して謹んで哀悼の意を表しますとともに、被害に遭われた方々に心からお見舞いを申し上げ、一日も早い復旧復興を願いながら、本日でございますけれども、道議会といたしましても全議員100名の賛同を得て義援金を送らせていただくこととしております。

さて、本日全道各地から多くの皆様が出席され、本大会が盛大に開催されることを心からお喜び申し上げます。お集まりの皆様におかれましては、日頃からそれぞれのお立場で私学教育を通じ本道教育の発展向上に多大なるご尽力をいただいておりますことに感謝申し上げますとともに、心から敬意を表する次第であります。

昨年の10月でありますけれども、小樽市で開催されました北海道私立中学高等学校協会令和5年度理事長・理事・校長研修会に私も出席させていただいたわけでございますけれども、その際にもお話をさせていただきましたが、本道の私学はこれまでも建学の精神と独自の教育理念の下で特色ある教育活動を展開され、きめ細やかな教育を提供することで我が国の将来を担う若者を数多く輩出するなど、教育の発展に多大な貢献をされてきたところでございます。しかしながら、少子高齢化による児童・生徒数の急激な減少、AIの教育活用など、地域と学校を取り巻く環境はますます複雑化、多様化しております。子供たちが自律的に未来を切り拓く力を育てていくことがこれからの学校教育により一層求められているところでありまして、私学ならではの魅力ある教育を提供していくためには皆様の役割は大変重要であると考えております。

北海道議会といたしましても私学教育の充実強化に向けて最善の努力をしまっている所存でございますので、皆様におかれましても引き続きご尽力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結びとなりますが、本日の大会が実り多いものとなりますことをご期待申し上げますとともに、本年がお集まりの皆様にとりましてよりよい1年となりますよう心からお祈り申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。本年も、どうぞよろしくお願い申し上げます。

私学振興に関する懇話会 全道大会

【田中芳憲 教育振興議連会長】

皆様、新年明けましておめでとうございます。ご紹介をいただきました北海道議会議員の田中でございます。私は、自民党で構成いたします教育振興議連の会長を務めている立場で今日ご挨拶をさせていただいているところでございます。



まず冒頭に、能登半島地震で大勢の皆さんが被災され、貴い人命が失われましたし、海保職員も無念の殉死を遂げられ、志半ばで、痛恨の極みでございます。

多分皆様方もご承知と思いますが、新潟、富山、石川県は明治以来、本道開拓に大きな集団移住をされた方々が大変多くいらっしゃいます。多分この中にもそれぞれのご当地で関係する知人、友人、あるいはご親戚の方がいて、大変心を痛めている方もいらっしゃるかと思います。そういった意味で、今回の地震は我々にとっても遠い話ではありません。

教育の場でこういうお話をするのもなんでございますが、日本には111の活火山がございます。そのうちの31が北海道にありますので、こうした大きな地震災害というのは私たちのそばにあります。多分、能登半島で被災された子供たち、今は食料や道路、水道、電気の回復を待っているはずですが、日常生活を取り戻した後、その心の傷を癒やし、新しい学びの道を進むためにもそれぞれ地元の関係者の皆様のご努力が本当に必要になってくると思います。そうした一人一人の力を合わせて、日本中の子供たちが幸せになるように、また、ここにいらっしゃる、建学の精神、それぞれ個性を持って大勢の人材を輩出されている皆様方の学校経営について、私たちも北海道のために、地域のために、微力ではありますが、これからも仕事を進めてまいりたいと思います。

話を元に戻しますが、先ほど鈴木知事が皆様方それぞれの活動を高く評価されて、応援したいという気持ちを述べられたと思いますが、そ

れを予算に反映していただきたい。我々教育振興議連は、その仕事を第一にしております。歴代の会長、ここには中司前会長もいらっしゃいますけれども、例えば1人当たりの助成金、これは人口減少がありますので、総体の額としては我々も財務部局と闘っている状況にもございます。そうした中で、先ほど中村先生から、いくらでもお札は刷れるのだと心強い言葉をいただいたのですけれども、北海道の財政の組み立てからすると、これ以上借金をすると自前の事業ができなくなります。それこそ財務省から、もうあなた方は借金できないよ、どちらかという合理化をして組織を建て直しなさいと。そう言われるような大変厳しい状況にあります。

鈴木知事は前夕張市長でありますけれども、夕張の次に厳しいのが北海道とよく言われておりますが、その中で我々力を合わせて何とか北海道の教育、特に個性ある皆様方の活動を少しでもお支えできるようにこれからも頑張りたいと思います。

西岡議長はじめ近藤会長とも、今年は、それこそ中村先生、和田先生のご紹介で財務省、文科省、子ども家庭庁、関係するところを全部回ってお願いしました。これは我々議員にとって大変重要なことなのです。というのも、地域から声を上げて、私たちがどれほど困っている、これほど必要なのですよということを役人に届けないと、やっぱり理解していただけないのです。しかも北海道の地域特性もございますので、押しなべて全国平均だなどというのは、北海道開拓の歴史は皆さんのほうがご存じかと思いますが、教育も含め、インフラも含め、まだまだ足りない状況なわけでありまして。そうした中で、地域の声を上げる役目も担っているところでございます。

そういった意味で、今日は皆様方のお手元の資料、その全てに、微力ではありますが、ここにいる北海道議会教育振興議連の仲間とともに頑張りたいと思います。

今日は7人の先生がご挨拶されるのですけれども、船橋先生と東先生が来るまで少し長めにご挨拶してもいいよと言われていたものですから、繰り返しになるかもしれませんが、みんなの力を合わせないとなかなかこういうことは解決しない

私学振興に関する懇話会 全道大会

わけであります。そういった意味では、皆様方から改めてご指導やご提言をいろいろいただくことと思ひますし、また地域においては、それぞれの学校、地域の議員がしっかりと耳を傾けて、地域の課題あるいは学校の課題を取り上げて、しっかりと国会議員の先生あるいは財務省や関係省庁のお役人にその願ひを届けられるように頑張つてまいります。議会も与党でございますので、ある意味、皆様方のお力が大変重要になってくるわけでもございますので、どうぞこれからもよろしくお願ひいたします。

それでは、皆様方の今年1年の輝かしい発展と、より多くの個性ある人材を北海道、地域のために育て、送り出していきたいと思ひます。

これからもどうぞよろしくお願ひ申し上げます、本大会のご盛會を心からお喜び申し上げます。本日は、誠にありがとうございました。

〔大会決議〕

大会の最後には、私学経営の健全化のための補助金等の大幅な拡充、私立学校の就学支援金制度等の拡充を図ることを柱とする決議案を、田中みどり北海道私立幼稚園協会副会長が読み上げ、全会一致で採択され、決議はその場で中村裕之衆議院議員に手渡された。



決 議

本道の私立の幼稚園・認定こども園、小・中・高等学校、専修学校・各種学校、短期大学、大学は、それぞれ建学の精神と独自の教育理念のもと、常に時代の進展と社会の要請に応じて特色ある教育を展開し、将来を担う人材を育成するとともに北海道の発展に多大な貢献をしております。

近年、人口減少や少子化の進行、ICT環境の整備、グローバル化の進展など教育を取り巻く環境が急速に変化しており、加えて昨今のエネルギー価格の上昇をはじめとする物価高騰により、私学を取り巻く環境はますます厳しさを増しており、我が国が持続可能な社会を維持していくためには、次代を担う子供たちへの質の高い教育の提供が何よりも大切であり、そのためには、安定した経営基盤のもと私学ならではの特色を生かした教育の充実が大変重要となっております。

本日、私学関係者並びに保護者の総意において、本道の教育の充実・発展に一層努力することをお誓ひ申し上げますとともに、公教育における公私間のさまざまな格差是正を目指し、その速やかな実現を期して次の事項を決議します。

記

- 一、私学経営の健全化、保護者負担の軽減及び教育諸条件や施設設備の整備のため、所要の補助金等の大幅な拡充を図ること
- 一、公私間における保護者の教育費負担の格差是正のため、私立学校の就学支援金制度等の拡充を図ること
- 一、学校施設等の耐震化の早期完了と既存の施設整備の更新、長寿命化のため、所要の補助金等の大幅な拡充を図ること
- 一、私立学校教職員退職金資金給付事業等の補助金の充実を図ること
- 一、原油価格の上昇などによる電気料金等を含む物価高騰に対する支援の充実を図ること

令和6年1月10日

私学振興に関する懇話会全道大会

私学振興全国大会



日本私立中学高等学校連合会(中高連)及び日本私立小学校中学校高等学校保護者会連合会(日私学保連)の主催による「令和5年度(2023年度)私学振興全国大会」が、11月1日に文京シビックホール「大ホール」で開催された。

全国の都道府県から1,648名の私立学校関係者や保護者が参加し、また、大会には日頃から私学の振興・発展にご理解いただいている自由民主党国会議員49名(代理を含む。)の皆様にご出席いただき、私立学校に対する補助金の大幅な拡充や私立学校保護者の教育費負担の軽減等、ICT環境の整備、施設の耐震化等に対する補助金の拡充などを要請した。

はじめに、主催者を代表して吉田晋中高連会長と門傳英慈日私学保連会長が挨拶に立った。吉田会長からは、世界的に物価が高騰し、また、急速に進行している少子高齢化とそれに伴う人口減少が社会経済に与える影響は甚大であり、日本社会は様々な課題解決に迫られている。こうした厳しい状況の中で私立中学高等学校は、我が国の将来を担う子どもたちの育成のために、建学の精神のもと、常に新しい時代に対応した特色ある質の高い教育を展開し、社会性を身につけた有益な人材の育成に取り組んでいる。私立学校は保護者が負担する授業料と公的支援で運営されており、私立学校運営の根幹である経常費助成が増えることが

決 議

私立中学高等学校は、建学の精神の下、常に社会の要請に応え、特色ある質の高い教育を展開し、我が国の公教育の発展に貢献してきました。

現在、我が国は少子高齢化の急速な進行による人口減少やデジタル社会への転換など、社会構造の大きな変化と円安等の影響による物価高騰に直面しています。

このような厳しい状況の中で、私立中学高等学校は、ICT環境の整備をはじめ、子供たちの命を守る施設の耐震化や、近年の気温上昇による熱中症対策など、教育環境の整備に努めていますが、これらの実現を図るための経費負担は、国公立学校がその全額を公費で賄えるのと異なり、私立学校においては最早自助努力の範囲を超えるものとなっています。

また、我が国の将来を担う子供たちが世帯年収や居住地に関わらず自由に学校を選択し、質の高い教育を等しく受けられるよう、都道府県における経常費助成や就学支援金の上乗せによる支援額の格差を是正し、保護者の教育費負担の軽減を図ることが強く求められています。

つきましては、本日ここに、私立中学高等学校関係者並びに保護者の総意において、私立学校の自主性・独自性の確保と我が国の公教育における公私間の様々な格差の是正の実現を期して、下記の事項について決議いたします。

記

- 一、私立中学高等学校の教育全般の充実発展のため、経常費助成費等補助の大幅な拡充を図ること
- 一、私立中学高等学校の保護者の教育費負担を軽減し、公私間や都道府県間の格差を是正するため、国による就学支援金制度や授業料減免支援の大幅な拡充を図ること
- 一、私立中学高等学校のICT環境の整備、施設の耐震化、高機能化の早期実現のため、所要の補助の大幅な拡充を図ること

令和5年11月1日

令和5年度私学振興全国大会

私学振興全国大会

重要であることを訴えるとともに、私立学校振興のために自由民主党の先達たちにより議員立法で成立した私立学校振興助成法は、私立学校の教育条件の維持及び向上、私立学校に在学する生徒等に係る修学上の経済的負担の軽減、私立学校の経営の健全性を高め、もって私立学校の健全な発達に資することを目的とし、このことは保護者負担の軽減にも繋がる。私たち私立中学高等学校は、自主性・独自性を堅持しながら、これからも生徒そして保護者の期待に応えられるよう、子供たちの教育の更なる充実・発展のため邁進していくことを約束する旨の挨拶があった。

続いて門傳日私学保連会長からは、我が国の公教育は、国公立学校によって支えられており、それぞれが担う役割を十分に発揮してこそ多様で健全な学校教育が維持され発展するものと信じている。しかし、私立学校の保護者の立場からすると、国公立に比べ私立学校に対する公的支援はまだ低い水準に止まっている。就学支援金制度等の拡充など公私間での教育費負担の格差是正が図られつつあるが、私立中学

高等学校における更なる負担軽減に向けた公的支援の拡充が求められている。一方で、私立学校では教育の自由度がとりわけ大切である。私学教育の自由を奪うような公的支援は決して認められない。子供たちの教育環境の更なる充実のためにも、令和6年度私学関係政府予算編成で、私立学校の経常費助成費補助をはじめとする補助金の拡充強化を訴えた。

また、中高連の近藤彰郎副会長からは、まず自由民主党の先生方の議員立法により成立した私立学校振興助成法のおかげで私立学校は創設者の思いを受け継ぎ学校運営を行うことができていること、学校法人のガバナンス強化が議論された際には、私立学校の現状に即した私立学校法の一部改正が行われたことに感謝の思いを出席の国会議員に伝え、さらには大阪府の高校授業料無償化政策の「キャップ制」については、大阪府内に止め全国へ拡大させてはならないことを述べられた。

さらに、兵庫県私立中学高等学校保護者会連合会の吉村美緒さんが、教育のデジタル化の基盤となる1人1台のパソコンの配備や学校の施設設備の整備をはじめとする教育環境の一層の充実と保護者の経済的負担の軽減のための支援を盛り込んだ「保護者の願い」を読み上げ、山谷えり子参議院議員に手渡された。

最後に、日私学保連の東原相次郎副会長が、「私立中学高等学校の教育全般の充実発展のため、経常費助成費等補助の大幅な拡充」「私立中学高等学校の保護者の教育費負担を軽減し、公私間や都道府県間の格差を是正するため、国による就学支援金制度や授業料減免支援の

保護者の願い

国会議員の先生方には、平素より私学教育の振興、発展のためにご尽力を賜り、心より御礼申し上げます。また本日は大変ご多忙の中、ご臨席いただきまして、誠にありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症がこの5月より5類感染症に移行し、子供たちは、これまでの学校生活を取り戻しています。しかし他方では、日本経済は低迷し、人口減少、少子高齢化が深刻化する中で、子供たちには予測困難な課題に対応する力を身につけることが求められます。

また昨今、国際情勢は不安定さを増し、国内では諸物価の高騰など、私たちの家計にも少なからず影響を及ぼしています。

これまで、年々私学助成の拡充が図られるとともに、国の就学支援金制度等の拡充により、保護者の教育費負担の軽減が図られてきました。

しかしながら、経常費助成に係る生徒等1人当たり単価は、都道府県間で格差が拡大し、国の就学支援金は、世帯年収590万円を境に大きく格差が生じており、都道府県独自の上乗せ支援によってその開きはさらに拡大しています。これらの格差の是正と保護者の教育費負担の軽減には、私学助成や就学支援金の大幅な増額が必要不可欠です。

子供たちが主体的に、幅広く深い学びを実践し、自分の進路をたくましく切り拓き、将来社会の担い手として活躍できるように成長することが、私たち保護者の何よりの願いです。

私たちは、世帯年収や居住地にかかわらず、子供たちが、自ら選択した私立学校で、等しく質の高い教育を受けることができるよう切に願っております。

本日ご臨席の国会議員の先生方には、令和6年度私学関係政府予算の編成にあたり、私立学校と保護者、そして何よりも子供たちのため、教育のデジタル化の基盤となる1人1台のパソコンの配備や学校の施設設備の整備をはじめとする教育環境の一層の充実と、保護者の経済的負担の軽減を目指し、格別のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年11月1日

令和5年度私学振興全国大会 保護者代表

兵庫県私立中学高等学校保護者会連合会 吉村 美緒

私学振興全国大会

大幅な拡充」「私立中学高等学校のICT環境の整備、施設の耐震化、高機能化の早期実現のため、所要の補助の大幅な拡充」を要望の柱とする決議案を読み上げ、満場一致で採択され、義家弘介衆議院議員に手渡された。

来賓議員から力強いご挨拶

最初に、青山周平文部科学副大臣からご挨拶があり、文部科学省としては子供たち一人一人が自ら個性を磨き、創造性を伸ばし、国際社会で活躍できる心豊かな国民に成長できるよう、教育振興、教育投資の充実に努める。なかでも建学の精神に基づき個性豊かで多様な教育活動を展開している私立学校の役割は我が国の学校教育の発展に極めて重要であるとの認識のもと、教育条件の維持向上、児童生徒の修学上の経済的負担の軽減、私学経営の健全化を高めるため私学助成の充実や税制上の優遇措置をはじめとした私立学校振興方策の推進に取り組んでいるところである。今後ともご出席の先生方のお力も得つつ、私立学校の発展のために精一杯取り組んでいくと発言があった。

続いて自民党政務調査会長の萩生田光一衆議院議員からは、今回皆様から経常費助成の強化をはじめ、就学支援金やICT関連予算、そして施設関連予算の拡充強化など政府予算に関するご要望が提出されている。現在政府と与党が力を合わせて財政当局と折衝を行っているが、私立学校のタブレットやパソコンの購入費用の補助率は、来年度から現在の1/2以内から2/3以内に引き上げる予定である。更に、壊れることも想定して15%余分に予算措置させていただく。また、理系の教育をこれから増やしていくのが我が国の基本方針である。従って、高等学校時代からデジタルに馴染んでもらうために全国で1,000校、100億円を計上し、デジタル環境を来年から一気に整備する予定であるとの発言があった。

また、元文部科学大臣の下村博文衆議院議員からは、大阪府の「キャップ制」は私立の公立化に繋がりにくい。私立学校の独自性を認めると同時に国としての負担がこれから問われてくる。全国一律の平均的な教育しか出来ないことになれば、この国の活力は失われていく。憲法89条についても、私立学校に対して公的資金を出しても憲法違反にならないと整理することによって、授業料無償化を進めていく。

さらに、自由民主党北海道支部連合会長の中村裕之衆議院議員からは、私学助成の低下は家計の負担となり、少子化の原因にもなる。少子化対策の重要なポイントとして、私学助成の増額が重要である。私立学校の素晴らしさを社会に示すためにも、しっかりとしたガバナンスによる学校経営に当たってもらいたいなどの挨拶があった。

そのほか、前総務大臣の松本剛明衆議院議員、山谷えり子参議院議員、元文部科学大臣の芝山昌彦衆議院議員、義家弘介衆議院議員、石原宏高衆議院議員、赤池誠章参議院議員、田中英之衆議院議員、田野瀬太道衆議院議員、今井絵理子参議院議員、勝目康衆議院議員、鈴木英敬衆議院議員、宮内秀樹衆議院議員からご挨拶があり、1時間を超える大会は幕を閉じた。

大会終了後、道中高協会と北私学保連の参加者は国会議員会館に移動し、道選出国会議員等に対し要請活動を行った。

道・道議会・国への要望活動

「令和5年度私学振興に関する懇話会」については、1月に全道大会を開催しているほか、北海道議会教育振興議員連盟の皆様をはじめ、北海道総務部長、北海道教育委員会教育長とも個別に開催し、私学の現状や課題について意見交換を行うとともに、予算要望等を行っている。

1. 私立学校におけるエネルギー価格、食料品価格等の高騰に対する緊急要望

原油価格の上昇等による電気、ガスなどエネルギー価格、食料品価格等の高騰により、私立学校の経営への影響が大きく安定的な学校運営や教育水準の維持向上を図るため、「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」による支援について、4月6日に北海道(学事課長)へ要望した。

2. 北海道議会教育振興議員連盟との懇話会

北海道議会教育振興議員連盟の皆様との懇話会は、第1回目を概算要求に向けて7月13日に、第2回目を令和6年度の私学振興関係予算要望に向けて12月13日に開催。

私学の現状や課題等について説明するとともに、私学関係予算について要望し意見交換を行った。



3. 令和6年度私立高等学校等関係政府予算に関する要請

少子高齢化・人口減少社会の到来、グローバル化の目覚ましい進展など我が国の社会構造の大きな変化の中、ICT環境の整備や教育のデジタル化による学びの充実、教員の資質の向上・負担軽減などの課題への対応のほか、原油価格の上昇や円安の進行などによる物価高騰により、私学を取り巻く環境はこれまでも増して厳しい状況を踏まえ、令和6年度私立高等学校等関係政府予算について、道議会教育振興議員連盟のお力添えをいただき関係省庁及び国会議員への要請活動を行った。

【中央要請】令和5年7月20日(木)

・要請内容

私学予算の拡充、私立高等学校等施設の耐震化に対する支援の充実強化、ICT環境の整備促進及び公私間の納付金負担格差の縮小是正と保護者負担軽減施策の拡充

【要望先】

文部科学副大臣	梁	和	生	
文部科学省私学部長	重	里	毅	
財務大臣政務官	宮	本	周	司
北海道選出国會議員				

【出席者】北海道議会教育振興議員連盟

会長	田	中	芳	憲
前会長	中	司	哲	雄
会長代行	笠	井	龍	司
幹事長	清	水	拓	也
北海道私立中学高等学校協会				
会長	西	岡	憲	廣
事務局長	澁	谷	恵	補
事務局次長	代	田		透



道・道議会・国への要望活動

4. 北海道総務部長との懇話会

山本倫彦総務部長との懇話会は、9月7日(木)に開催。

西岡会長の挨拶後、明上山副会長及び山崎副会長から、私学の現状や課題、私学予算の推移等を説明するとともに、今後の私学振興について意見交換を行った。

5. 私立学校における熱中症対策に対する緊急要望

子どもたちの命を守り、安全で安心して学校活動ができるよう、私立学校施設整備費補助金の予算確保や補助率の引き上げ、補助対象に簡易型クーラーの設置を加えるなどの拡大を図るとともに、公私の区分なく全額を国で負担するなどの仕組みの検討について、9月15日に北海道(学事課長)へ要望した。

6. 自民党道連団体政策懇談会における要望

自民党道連が主催する、令和6年度の道の予算要望等の各団体との懇談会について、当協会も北海道私学団体連合会の一員として参加した。

10月12日(木)に開催され、当協会は西岡会長(北海道私学団体連合会議長)と明上山副会長が出席し、「令和6年度私学振興に関する要望書」に基づき、管理運営対策費補助金の充実、私立高等学校授業料軽減補助制度の拡充、入学一時金軽減補助制度の創設、公立高校の定員調整、公立高校の二次募集による私立高校合格者の辞退防止対策などについて要望した。



7. 北海道教育長との懇話会

倉本北海道教育長との懇話会は、11月20日(月)開催。

山崎副会長から、公立高校の間口調整不足や調整の必要性を説明し、また、公立高校の二次募集の出願資格については、道教委のアンケート調査の回答者の多くが公立高校や中学校の関係者であること、家庭の経済的事情から私学に進学できない生徒への配慮を理由にあげられていることに対する意見を述べるとともに、「入学手続を完了した私立高校合格者」は第二次募集資格者として認めないよう強く要望した。



8. 北海道議会での「私学助成制度に係る財源措置の充実強化に関する意見書」の議決

国の予算時期に合わせて「私学助成制度に係る財源措置の充実強化に関する意見書」を議決していただいております。令和5年度も第2回定例道議会の会期最終日の7月14日に議決していただきました。

道・道議会・国への要望活動

意見書は次のとおり。

(令和5年7月14日 原案可決)

意見案第6号

私学助成制度に係る財源措置の充実強化に関する意見書

私学は、建学の精神と独自の教育理念の下、時代の変化や社会の要請に応じた特色ある教育を実践し、我が国の公教育の発展に大きな役割を果たしてきた。

しかしながら、我が国は、少子高齢化社会の到来というこれまで経験したことのない厳しい時代を迎えており、私学においても、児童生徒の急激な減少と、昨今の原油価格の上昇や円安の進行などによる物価高騰のための対応等により、経営環境はより一層厳しさを増している。

近年ますます国際化・高度情報化が進展する社会において、我が国が持続的に成長・発展を遂げていくためには、新しい時代が求める能力や知力を有するグローバル人材の育成が急務であり、私学は、こうした人材育成のために、これまで以上に自主性や多様性を発揮しながら、社会的役割を果たしていく必要がある。

国は、年収590万円未満世帯を対象とした私立高等学校等の授業料の実質無償化を実現するなど、公私間の格差是正に努めてきたところであるが、私学経営は依然として厳しい経営を余儀なくされており、その安定性・健全性を高めることが何よりも重要となっている。

よって、国においては、こうした私学が置かれている厳しい経営環境や公教育における社会的役割に加え、昨今の原油価格の上昇や円安の進行などによる物価高騰の影響にしっかりと目を向け、次に掲げる事項について支援の一層の充実強化を図るよう、強く要望する。

記

- 1 私立学校振興助成法の趣旨を踏まえた「経常的経費の2分の1補助」の実現
- 2 「私立高等学校授業料の実質無償化」の所得制限を撤廃するなど公私間の納付金負担格差の縮小是正とさらなる保護者の負担軽減施策の拡充
- 3 学校施設の耐震化に対する公立学校と同水準の支援
- 4 公私を区別しないICT環境の整備促進
- 5 都道府県が実施する私学助成制度に対する財源措置の一層の充実強化
- 6 原油価格の上昇などによる電気・ガス料金を含む物価高騰の影響に対するより一層の支援

以上、地方自治法第99条の規定により提出する。

令和 年 月 日

衆議院議長
参議院議長
内閣総理大臣
総務大臣
財務大臣
文部科学大臣

} 各通

北海道議会議長 富原 亮

定例総会・理事会・各部会の活動

定例総会

令和5年度の定例総会は、5月9日(火)札幌ガーデンパレスにおいて開催。
西岡会長の挨拶に続いて、来賓として北海道の藤原総務部長から挨拶をいただいた。

議長選出を諮り、札幌日本大学学園理事長、札幌日本大学中学校・高等学校長の浅利剛之氏が議長に選出され、審議が進められた。

1. 審議事項

議案第1号「令和4年度事業報告及び収支決算について(監査報告)」

議案第2号「令和5年度事業計画(案)及び収支予算(案)について」

○議案第1号及び第2号について、担当部会長及び事務局から説明し、原案のとおり議決。

2. 報告事項

報告第1号「理事長・校長等の異動等について」

報告第2号「令和5年度暫定予算について」

○事務局から説明し承認。すべての議事を終了し閉会した。

総会終了後の懇親会には、来賓として、北海道議会教育振興議員連盟の中司哲雄会長、吉田正人副会長、田中芳憲副会長、笠井龍司幹事長、三好雅副幹事長、加藤貴弘副幹事長、清水拓也事務局長、佐藤禎洋事務局次長、檜垣尚子事務局次長、衆議院議員秘書等の皆様、北海道総務部の成田正行教育・法人局長、木村重成学事課長にご出席いただき、会員との懇親を深めていただいた。

理事会

理事会は、定例総会に向けて主に事業報告・収支決算及び事業計画・収支予算を協議するため3月と4月に、また、翌年度の予算要望方針等を協議する会議を8月に開催した。

令和4年度 第3回 令和5年3月23日(木)

1 協議事項

(1) 令和5年度定例総会議案について

① 令和4年度事業報告及び収支決算について

② 令和5年度事業計画(案)及び収支予算(案)について

③ 理事長・校長等の異動等について

④ 令和5年度暫定予算(案)について

(2) 令和5年度私立中高振興対策費「特別会計」(案)について

2 報告事項

(1) 支部長の異動状況について

定例総会・理事会・各部会の活動

令和5年度 第1回 令和5年4月13日(木)

1 協議事項

- (1) 令和4年度監査報告
- (2) 令和5年度定例総会の配付資料、提出議案、進め方について
- (3) 令和5年度定例総会懇親会の進め方について

令和5年度 第2回 令和5年8月25日(金)

1 説明

- (1) 令和6年度国の文教施策及び予算に関する提案・要望について
- (2) 私立高等学校管理運営対策費補助金の推移について
- (3) 令和5年度新規・拡充事業の概要について

2 協議事項

- (1) 令和6年度私学振興に関する要望書(案)について

3 報告事項

- (1) 公立高等学校配置計画案(令和6年度～8年度)について
- (2) 令和5年度北海道地区初任者研修会について
- (3) 「2024年版私学ナビ」「令和5年度修学支援リーフレット」の発行について
- (4) 令和5年度北海道私立学校展の開催について

令和5年度 第3回 令和6年3月25日(月)

1 協議事項

- (1) 令和6年度定例総会議案について

令和5年度事業報告及び収支決算、令和6年度事業計画(案)及び収支予算(案)、役員
の選出、理事長・校長の異動等、令和6年度暫定予算(案)、令和6年度私立中高振興対策
費「特別会計」(案)

- (2) 学校法人日本航空学園(日本航空高等学校北海道)の入会希望について

経営管理部会

部会長 明上山 勝己

私学の更なる発展を期して

私学経営は、2つの変革要請に晒されています。第1に、少子化と過疎化の一層の進行(→入学者数の停滞ないし減少)、デフレ経済からの脱却＝インフレの進行(→経常的支出の一層の増大)、そして働き方改革は、私学経営に対して深刻な状況を作り出し、私学経営の改革を迫っています。第2は、新指導要領の開始とともに求められている教育におけるDXの推進です。まさに私学がリードすべき教育の転換を意味するものとして、私学経営の転換を迫っています。

本部会としては、この窮状に正面から立ち向かわなければならないと考えています。そのために、今まで以上に私学の多様性を前提に私学間での協働関係を強化し、関係機関と一層の協力関係を実効性あるものにすべく活動をしていかなければなりません。

令和5年度の活動報告をさせていただき、皆様のご理解とご協力に感謝申し上げますとともに、令和6年度もなお一層の具体的取組を追究すべく、よろしくお願い申し上げます。

定例総会・理事会・各部会の活動

1. 令和6年度私学振興予算要望の概要

経費の動向等を踏まえ、父母負担の軽減、教育条件の維持向上、経営安定等を図るため、管理運営費補助の充実(生徒一人当たり単価アップ、補助金総額の確保)、小規模校経営改善促進の継続、耐震化の更なる充実、入学一時金軽減補助制度の創設などを要望することとする。

<要 望 事 項>

(1) 私立高等学校、中学校及び狭域通信制高等学校に対する管理運営費補助金の増額について (補助単価要望を3%アップ)

私立高等学校管理運営対策費補助金	112.6億円
私立中学校管理運営対策費補助金	10.2億円
私立狭域通信制高等学校管理運営対策費補助金	8.7千万円

(広域通信制は国による直接補助)

(2) 私立高等学校等に対する私学振興方策について

- 私立学校振興助成法の趣旨を踏まえ、経常経費の2分の1補助実現
- 生徒一人当たり補助単価の引き上げと全国順位を下回らないこと
- 国による財源措置の一層の充実と、道の上乗せ額の縮減を行わないこと
- 中卒者数の減少の著しい地域の小規模校に対する特別措置
- 耐震化等への支援の充実強化

現在、私立高等学校等施設の耐震化率では、北海道は77.1%、全国順位では46位となっています。公立高等学校等の耐震化率はほぼ100%となっており、遅れをとらないよう努めていかなければなりません。

- ICT環境整備促進について公立との格差是正
- 公私間の生徒納付金格差の縮小・是正、父母負担軽減策の充実
 - 道の私立高校授業料軽減補助の一層の充実
 - 公私間の納付金格差が非常に大きい私立の入学一時金の軽減補助制度の創設
 - 私立中学校等における通う児童生徒への授業料減免支援制度の充実
 - 奨学のための給付金制度の更なる充実
 - 私立高等学校等の生徒の海外研修経費への支援の充実
- 中卒者減少に対応した公立高校の適切な間口減
- 道立高校の第二次募集による私立高校入学手続き完了者の辞退防止対策

[以下参考]

(3) 公益社団法人北海道私学振興基金協会が行っている私立高等学校に対する経営安定資金貸付制度の継続について

経営安定資金貸付金	9億円(令和5年度 9億円)
短期経営安定資金貸付金	2億5,000万円(令和5年度 2億5,000万円)

(4) 公益社団法人北海道私学振興基金協会が行っている私立高等学校等の教育施設整備事業に対する貸付制度の継続について

貸付金	1億円(限度額)(令和5年度 1億円)
-----	---------------------

(5) 公益社団法人北海道私学退職金社団が行っている教職員退職金資金給付事業に対する補助金について

補助定率	1,000分の36(令和5年度 1,000分の29)
補助金額	2億8,654万円(令和5年度予算額 2億3,328万円)

定例総会・理事会・各部会の活動

現在の負担金率は令和5年度から標準給与総額の1,000分の154の額を徴収しております。平成26年4月から公益社団法人に移行しましたが、退職金給付事業における要支給額に対する積立金の割合は、全国平均より下回っており、公益法人として今後更なる積立金の充実が求められます。道内の私立学校の教職員等の安定的な人材確保のため、地方交付税で財源措置が講じられている私立中・高等学校教職員等の標準給与総額の1,000分の36相当額の道補助金の復活を願うものであります。

(6) 公益財団法人北海道高等学校奨学会が行っている奨学金等の貸付について

奨学金貸付月額

10,000円、15,000円、20,000円、25,000円(公立上限)、30,000円、35,000円(私立上限)

(上記金額から希望額を選択)

償還期間 12年以内 (据置1年)

高等学校奨学会は、向学心に富み、かつ経済的理由により就学困難な高校生等に対して奨学金等の貸付を行うなど、有用な人材を育成する事業を実施しております。令和5年度においても、奨学金の貸付や償還など、事業の運営にあたり支障が生じることのなきよう、格別なご高配をお願いする。

2. 令和5年度の主な動きとしては、監事による監査(4月11日)、経営管理部会(8月21日、3月7日)、私学振興全道大会(1月10日)を開催したほか、道議会教育振興議員連盟との懇話会(7月13日、12月13日)、道総務部長との懇話会(9月7日)、自民党道連団体政策懇談会(10月12日)、道教育長との懇話会(11月20日)に参加しました。また、令和6年度政府予算要望については、7月20日に道議会教育振興議員連盟のお力添えで、堀井学衆議院議員を通して道議会教育振興議員連盟の田中芳憲会長、中司哲雄前会長、笠井龍司会長代行、清水拓也幹事長にご同行願い、財務省、文科省、道選出衆・参議院議員に対し陳情を行いました。

4月6日には私立学校における光熱費等の高騰に対する緊急要望、9月15日には私立学校における熱中症対策に対する緊急要望を道に対し行いました。

11月1日には全国私学振興大会に参加終了後、衆参議員会館に赴き、道選出国會議員に私学予算について陳情いたしました。

3. 当部会として、私立中高校等に対する助成、就学支援の充実、公私間の生徒納付金等格差是正のための施策充実、公立高校の間口調整等について、今後とも行政機関、関係機関、関係団体と連携をとりながら検討を重ねて参ります。

4. 教育振興部会、研修部会、他団体のご協力により私学の情報誌として「私学振興だより」30号を発刊することができました。担当部会といたしまして感謝申し上げます。今後とも、予算要望等私学振興に反映させて参りたいと思っておりますので、ご指導、ご協力のほどお願いいたします。

定例総会・理事会・各部会の活動

教育振興部会

部会長 山崎 省一

公私協の充実した協議にむけて

2023年は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより、通常の世界経済活動が復活しました。教育振興部会も予定通りに諸会議を実施し、行政や議員に私学の要望や意見を伝えることができました。皆様のご理解とご協力にあらためて感謝を申し上げます。

世界も日本も、混迷が深まり、先の見通せない厳しい時代を迎えています。こんな時代であるからこそ、それぞれの私学がそのミッションとビジョンを明確にし、存在価値を高めることが必要です。私学の教育力は、未来を切り拓く大きな力であり、北海道においてもその役割はますます重要になっています。私学所在学区における公立高校間口調整の適正化や公私比率の見直し、公立2次募集における不平等性の是正などについて、継続的に協議し働きかけていくことは、北海道の公教育を守っていくためにも必要なことです。教育振興部会として、さらに取り組みを強めてまいります。

以下、本年度の具体的経過をご報告申し上げます。

第1回教育振興部会(4月14日)

(協議)

(1) 公立高校配置計画(令和6年度～8年度)に係る意見要望について協議するとともに、部会終了後に開催される「公私協」において、道教委に対して要望を行うことを確認。

各学区の状況について説明聴取。

(2) 公立高校等入試の2次募集の状況及び公立高校の2次募集による入学者辞退調べの結果について確認するとともに、高校配置計画に係る意見要望と併せ、2次募集出願資格の見直しについて道教委に要望することを確認。

(報告)

(1) 令和5年度入試出張試験の実施結果について報告

(2) 令和5年度私立高等学校一般入試に係る追試験の実施結果について報告

(3) 道内高専の在籍状況(第1学年)について報告

第2回公私協議会(4月14日)

・公立高校配置計画(令和6年度～8年度)の策定に向けた考え方について、道教委から説明。

・明上山副会長から、各学区の具体的な要望を理解し、配置計画に適切に反映するよう要請するとともに、道立高校の2次募集の見直しを要望。

・各支部長から、それぞれの学区の実情や課題などについて発言し、中卒者の減少が見込まれる令和8年度の間口調整を確実に実行することを要望。

・その後、山崎部会長からこれまでの調整状況を踏まえて配置計画を策定すること、都市部における間口調整や再編を進めること、隣接学区における間口調整も確実に行うこと、高専への定員見直しの働きかけ、道立高校の2次募集の見直しをすることなどを要請。

・明上山副会長から齊藤道立学校配置・制度担当局長に意見要望書を手交。

定例総会・理事会・各部会の活動

第2回教育振興部会(7月10日)

(協議)

- (1) 6月に公表された令和5年度公立高校配置計画案(令和6年度～8年度)に係る修正意見要望について協議するとともに、部会終了後に開催される「公私協」において、道教委に対し修正意見要望を行うことを確認。
各学区の状況について説明聴取。
- (2) 高校配置計画に係る修正意見要望と併せ、2次募集出願資格の見直しについて道教委に要望することを確認。

(報告)

- (1) 令和6年度入試に係る出張試験実施計画の届出について報告
- (2) 収容定員の変更に関する届出について報告
- (3) 市立札幌開成中等教育学校の入学者選考日程について報告

第3回公私協議会(7月10日)

- ・令和5年度公立高校配置計画案(令和6年度～8年度)等について道教委から説明。
- ・明上山副会長の挨拶の後、各支部長からそれぞれの学区の実情や課題などについて発言し、配置計画案の必要な見直しについて要請。
- ・その後、山崎部会長から、令和8年度の間口調整は、各支部長からの発言どおり私学側の要望との隔たりが大きいものとなっている。8年度に多くの学区で中卒者数が減少するとともに、入選後、定員の4割を超える欠員をかかえている学区もある中で、早急に見直しが必要であること、道立高校の2次募集に関しては、令和5年度の入選では募集人員数が公立高校の定員の15.8%にあたる4,767人となっているが、充足率は極めて低い状況となっており、制度的に無理があると同時に、公私間の信頼を損ねる問題であることから早急に検討願いたいと発言。
- ・明上山副会長から修正意見要望書等を齊藤道立学校配置・制度担当局長に手交。

第3回教育振興部会(12月15日)

(協議)

- (1) 令和6年度公立高校配置計画(令和7年度～9年度)に係る私学意見要望を確認。
各学区の状況について説明聴取。
地域別公私協開催日程について報告。
- (2) 高校配置計画の意見要望と併せ道教委に2次募集出願資格の見直しについて要望することを確認。

(報告)

- (1) 収容定員の変更に関する届出について報告

第1回公私協議会(12月15日)

- ・公立高校配置計画(令和6年度～8年度)の概要について道教委から説明。
- ・明上山副会長から、令和5年度の公立高校配置計画について、間口調整が不足している学区も多く残っており、多くの欠員が生じている公立高校の状況をみると私学側として満足できるものではないことを指摘するとともに、2次募集について早急な見直しを要望。
- ・各支部長から、令和6年度の配置計画の検討に向けて、各学区の現状や課題、間口調整要望などを発言。

定例総会・理事会・各部会の活動

- ・その後、山崎部会長から、4月の段階で私学側の要望に対する道教委の具体的な考え方を示すこと、令和6年度の配置計画については、9年度に中卒者数の大幅な減少が見込まれるとともに、多くの公立高校で欠員が生じておりこれまでの定員調整が適切に行われていないとの認識のもと策定すること、道立高校の2次募集の見直しを行うことなどを要請。
- ・明上山副会長から意見要望書等を齊藤道立学校配置・制度担当局長に手交。

第4回教育振興部会(2月26日) (協議)

- (1) 入試制度について検証し、令和7年度一般入試についても、A・B日程での実施を確認。
- (2) 令和7年度一般入試日程(案)及び入試日程決定に係る作業スケジュールを協議。
- (3) 令和5年度事業報告(案)及び令和6年度事業計画(案)について協議。

研修部会 部会長 浅里 慎也

令和5年度の研修事業・研修部会の動き

新型コロナウイルス感染症による影響が次第に沈静化する中で始まった今年度も、各校から研修部会活動に理解を頂き感謝致します。例年開催しております「北海道私学教育テーマ別研修会」は、今年度7月・8月にかけて北海道を会場に開催された「全国高等学校総合体育大会」の運営に各校が携わることから、残念ではありましたが開催を見送りました。他の主要事業は概ね当初の計画通り実施し終了することが出来ました。しかしながら、これまでどの時代も経験したことのない速さで、教育界を含む社会は大きく変化しています。ご承知のように公立学校も、これまで私立学校が創意工夫して時代の要請にこたえ続けてきた教育へ舵を切り始めています。同時代にある学校として社会の要請に応え、公教育を担う私学としての評価と役割を改めて確認し、新しい時代に生きる子供たちのために、これまでに増して私たち私学は教育の再構築をすべき時を迎えています。

次年度以降、研修部会の事業内容の在り方を含め、若手、中堅、管理職研修等のそれぞれの必要に応える体系的な繋がりをもつ形への整備を検討していきます。

〈事業〉

(1) 私立学校初任者研修北海道地区研修会

- (ねらい) 新規採用教員に対して私立学校教員としての心構えを体得させるとともに実践的指導力の育成を図る。
- (会期) 令和5年8月9日(水)～10日(木)
- (会場) 札幌ガーデンパレス
- (参加) 37名
- (担当) 札幌支部(札幌大谷中学校・高等学校、札幌北斗高等学校、札幌光星中学校・高等学校、札幌創成高等学校)

定例総会・理事会・各部会の活動

- (研修内容) 講義1 演題:未来の時代を読む契機
～ジュネーブウェルビーイング憲章(2021年)&Earth for All(2022年)～
講師:一般財団法人日本私学教育研究所 理事・所長 平方 邦行 氏
- 講義2 演題:新・生徒指導提要に即した教育相談のあり方
講師:北海道医療大学心理科学部 教授 富家 直明 氏
- 講義3 演題:新中学校学習指導要領における教育内容及び授業改善のポイント
について
～中高の接続を意識した高等学校における指導の充実に向けて～
講師:北海道立教育研究所 人材育成部・主査 木挽 ひろみ 氏
- 分科会 学習指導分科会、生徒指導分科会、学級経営分科会

(2) 令和5年度 理事長・理事・校長研修会

- (テーマ)アフターコロナの未来を担う魅力あふれる私学教育
(会 期)令和5年10月5日(木)～6日(金)
(会 場)小樽市 グランドパーク小樽
(参 加)43名
(担 当)小樽支部

(3) 令和5年度全国私学教育研究集会香川大会(参加)

- (会 期) 令和5年11月9日(木)～10日(金)
(会 場) 香川県 JRホテルクレメント高松
(研究目標) 持続可能な社会を実現する私学教育の創造

(4) 第61回北海道高等学校教育研究大会(後援)

- (研究主題) 北海道の新たな時代を拓く高等学校教育の創造
(会 期) 令和6年1月11日(木)～12日(金)
(会 場) カナモトホール(札幌市民ホール)
(全体講演) テーマ「ポストコロナでよく生きるために
～「利他」から見えてくる景色とこれからの高等学校教育～」
講 師:東京工業大学 科学技術創成研究院 未来の人類研究センター
伊藤 亜紗 氏・山本 貴光 氏・多久和 理実 氏
(教科別集会) 札幌市内・恵庭市内・小樽市内の14会場で開催

〈研修部会の主な動き〉

- ① 第1回研修部会 令和5年 6月23日(金)
- ② 第2回研修部会 令和5年 9月28日(木)
- ③ 私立学校初任者研修地区運営委員全国会議 令和5年10月6日(金)
- ④ 第3回研修部会 令和5年12月13日(水)
- ⑤ 第4回研修部会 令和6年 2月22日(木)

支部の声

札幌支部

支部長 宮路 真人

私学各校の特色ある取り組みや面倒見のよさへの評価が高まっているということが、昨今真に「実感」できるようになってきています。各方面からの「声」としてそれは届いていますし、就学支援金の追い風も受け、石狩学区の私立高校の充足率は令和3年度入試から3年続けて100%を超過しました。平成29年度から5.3%の伸び、平成18年度からは実に10.5%の伸びです。この数字が何よりの証左と言えます。一方、公立高校は漸減を続けており、令和5年度入試における欠員は264名に達しています。公立高校入試において「自己推薦制度」が導入され、いささか歯止めがかかった感はありますが、この流れを転換させるには至っていません。

北海道は広く、地域による事情は大きく異なり、特に私学非所在地（主に過疎地域）には「教育困難地域」と呼んでもよいエリアが生じつつあります。社会的には「官から民へ」という政策が広く行われています。前例踏襲的な間口調整を延々と続けるのではなく、限られた道の教育予算を有効に活用し、全道すべての高校生が良質な教育を受けられるように、公私協調のもと地域性に応じたダイナミックな間口調整を行うべきと、私たちは公立高等学校協議会（公私協）をはじめ様々な場面で訴え続けてきました。すなわち、私学所在地においては今までよりも少し私学（「民」）に任せ、そのことによって生み出された人的財政的資源を「公」においてしかできないことにさらに注入すべきではないか、就学支援金等による私学の学費の軽減によってその環境は整いつつあるのではないかということです。昨年度の公私協において、間口調整の方針に「地域性を考慮して」という文言が盛り込まれ、私たちとしては幾何かの期待をしたところですが、結果的には微調整の範囲に留まりました。道教委側は「公立高校にもニーズがある」という言葉で片付けようとしたり、状況分析の中で「公立は予定より多くの定員削減を行ってきており、これ以上の削減は困難である」とか「私学の定員削減率はそれに比べて低い、道としてはそれを容認している」という発言が飛び出したりと、消極的な姿勢が目立ちました。舞台裏では道教委もさまざまな要望や圧力の板挟みになり苦しいところであろうと想像はできますが、それでも私たちは躊躇ったりひるんだりすることなく、主張すべきは主張していかなければならないと考えます。

公私間に横たわるもうひとつの大きな問題が、公立高校の2次募集の件です。令和5年度入試における石狩学区の募集人員は実に521名に達しています。そしてこの2次募集で合格した生徒はわずか78名です。このことは公立高校の間口数（定員数）がいかに過剰かを如実に示しています。なお、このうちの36名は私学からの入学辞退者です。この生徒たちは確かに公立高校に行きたかったのかもしれませんが、しかしこのわずかな数を論拠に「公立高校にもニーズがある」と主張するのはいささか無理があります。また私学の学費負担についても2次募集を実施する重要な理由に挙げられていますが、この問題がネックだと主張するならば、学費負担をさらに軽減すべく私学への支援の拡充に努める方が財政の面を考えても合理的であり、筋だと思います。新年度開始直前の入学辞退は学校運営や経営に大きな影響を与え、「官」による「民」業圧迫と言っても過言ではありません。そもそも公立高校の合格者が私立高校の2次募集に応募することは認められず、逆は可というのは公私の平等性を欠くものであり、遺憾と言わざるを得ません。

私学に吹いてきている風をさらに強くし、北海道教育の発展に資するためにも、私学の負っているハンディキャップの改善を図る必要があります。北海道私立中学高等学校協会が中心となり、道議会教育振興議員連盟の方々のご協力を仰ぎ、世帯収入590万円を超える世帯に対しても補助金を拡充する件（「崖」の解消）や入学一時金への補助金支給の件、公私間で不平等が生じているICT環境整備や耐震化支援、冷房設備設置支援の件等々はもとより、間口調整や2次募集の

支部の声

件も、ぜひとも改善すべき問題として、積極的に、そして粘り強く働きかけていかなければなりません。

今年度の札幌支部の活動の中で特筆すべきは「入試制度検討委員会」の取り組みでした。昨年設置された委員会は3回にわたる議論を行い、それを踏まえ、①観点別評価の導入等を背景として、入試制度をどう改善していくのかについての率直な意見交換を行い、また私学の現状を一丸となって伝えていくための中学校校長会との継続的な協議の場を設けること、②私学を中学校教員に知ってもらうための新しいイベントを、中学校側の協力も得て模索すること、を決めました。1月には中学校校長会との最初の会合が行われます。

今、私学が一体となって大きな流れを作ろうという胎動のようなものを自分は感じています。札幌支部の各校がこれからも、北海道のよりよい教育を実現するという共通目標のもと、それぞれの特性を十全に発揮しつつ良き協力関係を築いていくことを心から願っています。

函館支部

支部長 高橋 真理子

函館の人口は令和5年1月1日時点で24万3,080人と前年より4,022人減少し、道内の自治体で減少数が最も大きくなりました。この状況下で、函館市内近郊の中学生人口の減少は進み、生徒募集には苦慮しているのが現状です。

令和5年度の渡島学区の中卒者数は推計で、令和5年度から令和11年度まで498名の減少、令和8年度から11年度では266名の減少が見込まれることから、道教委へ公立高等学校配置計画の策定にあたっては、学校配置・再編を含めた定員調整の検討を以下のように要望してまいりました。

令和5年度の公立高等学校配置計画に係る意見要望として、令和4年4月13日の公私協において、道教委から「中卒者減に従って調整していくことと積み残しは解消していくべき」という基本の考え方は変わらない」という説明があった。学区内では、令和7年度に前年度比205名減、令和8年度に64名減、令和10年度に152名減、令和11年度に51名減と減少傾向が続き、さらに、函館市での中卒者の減少は、令和7年度から令和10年度まで続く。これらを勘案し、中卒者減少ならびに議事録にも記載されている平成30年度からの積み残し分を含め、令和8年度3間口減、令和10年度3間口減、令和11年度1間口減を要望いたしました。さらに、中卒者急増期に新設された七飯高校については、平成20年度より15年間3間口が続いており、この度改訂が進められている高校づくりに関する指針においても示されている学級規模(4～8学級)になっていない状況にあることから早急に再編すべきと考える。以上に加え、函館高専が高校配置計画の枠外にあることは改善していかなければならない重要な課題であると考えている。

このような意見要望書を毎年、道教委に提出しておりますが、その中で道教委が令和5年6月6日に発表したのは渡島学区の函館水産高校1学級減でした。令和5年7月19日に行われました第2回公立高校配置計画地域別検討協議会においても、道教委は、2024～2026年度の配置計画案とその策定について2026年度函館水産高校1学級減の方針を示しました。この場でも、道教委は公立高校配置計画案の策定の基本的な考え方として、令和5年3月策定の「これからの高校づくりに関する指針」改訂版に基づき、「中卒者数の増減に適切に対応し、教育水準の維持向上などを図る観点から、市町や圏域において複数の高校が配置されている場合、関係市町村の

支部の声

参画を得ながら高校の役割分担や定員調整を含め具体的には配置の在り方を検討するなど、地域の実情、私立高校の配置状況を考慮しながら定員の調整や学校の再編整備等を行う」と説明しました。渡島学区には公立高校16校、私立高校8校、函館高専があります。道教委は、高校づくりの指針に則り、市町や圏域に複数の高校が設置されている場合、地域の実情、私立高校の配置状況を考慮しながら定員調整や学校の再編整備を行うべきと考えます。令和5年度入試においては、渡島学区では12校で396名の欠員があり、その中で函館水産高校は64名の欠員となりました。その状況下で函館水産高校1学級減という間口調整は私立学校に配慮した調整とは考えにくく、単純な公私比率によるのではなく、もっと丁寧の間口調整を考えていただきたいと考えます。

函館支部私立8校は、創立以来建学の精神に則り特色ある教育活動を続け、教育の充実向上、函館市の未来を担う子どもたちの健全育成のための教育の環境づくりを続けています。道教委には私学への配慮ある策定を願うばかりであります。

小樽支部

支部長 倉内 慶一

後志管内には、5校の私立高等学校があり、それぞれ特色ある教育を展開しています。

北照高校は明治34年に「北海道経済を支えるフロンティアスピリットにあふれた人物を育成する」という精神のもと、小樽で最初の高校として開校しました。現在もその精神を受け継ぎ、地域を支える人材を世に送り出し、オリンピックのメダリストやプロ野球選手も多数輩出しています。北照高校が挑戦しているのは心がときめく、わくわくする学びです。わかりやすい授業をベースに、ワインプロジェクトを初めとする各種プロジェクトで学びのフィールドを地域に広げ、深い学びを体験し、学び続ける生き方を身につけることで、将来の夢を描くことができます。現在、学校改革を進めており、さらに生徒の夢の実現を支えるプロジェクトを進めています。

北星余市高校は、全道全国から生徒が集まり、在校生の多くが町民の経営する男女あわせて15軒の寮下宿で生活をしながら通学しています。中学時代に不登校を経験した者も多く入学しますが、大きく環境を変えることで、もともと持っている力を発揮しながら、高校生活を楽んでいる姿が多く見られます。ここ数年、少子化や経済状況の悪化もあり生徒募集に苦戦しています。しかし、入学生が多くが人との関わりに苦手感を持ちながらも、人との関わりを求めています。キリスト教の教えでもある「隣人を愛する」を在校生たちとも共有し、すべての生徒が充実した高校生活を送れるような環境をこれからも守っていきたいと考えています。

天狗山の麓にある小樽明峰高校は、生徒数240名弱の普通科高校です。本校の掲げる【明峰で輝く】は、社会体験学習や総合表現学習などを、教員だけでなく地域の方々や専門家と深く接する特色ある教育を通して、新しい発見や学びを探究し、生徒が自らの成長を実感できる教育を目標としたものです。その中で、不登校経験者や学業不振者、対人関係を築くのが苦手な生徒たちであっても、これまでの自分から一歩踏み出し、学校生活をやり直し、自分を取り戻そうと輝きます。こうした生徒たちと向き合い、全力でサポートする教師集団の存在こそ本校一番の強みです。ホームページ【校長だより】やラジオ番組【School Life】等、本校の発信情報をご視聴ください。

小樽双葉高校は、明治40年開校の浄土真宗本願寺派宗門関係校で、仏教精神に基づく心の教育を行っています。コースは特別進学コースと総合進学コースに分かれ、自分の目標に応じた

支部の声

クラスに分かれて学習します。国際理解教育を重視し、姉妹校であるアメリカのサウスバーリントン高校との約2週間の交換留学やハワイ州の関係校PBAへの約6週間の短期留学に、費用の8割程度を負担しています。体験学習としては、6つの専攻の中から自分の興味関心に応じて体験するドリームプロジェクトがあります。ほとんどの生徒が部活動や生徒会等に所属し、特に強化指定部は全道・全国で活躍しています。また、通信制課程を併設していることも特徴の一つです。

北海道芸術高校は、2006年(平成18年)に十勝清水でスタートした広域通信制の学校で、現在、全国の1,411名の生徒が学んでいます。多様な芸術科目を設定し、生徒たちの興味・関心のある分野を学ぶことを学習の切り口とし、専門的に学びたいと望む生徒にも、不登校や学力不振に悩む生徒たちにも、入学時に学力で区別せずに同じスタートラインに立つチャンスを与え、学びのきっかけを作ることを教育の目的としています。2015年(平成27年)に本校を仁木町に移し、全国通信制高等学校評価機構の第三者評価を受審し、通信制高校として適切な教育を行っている学校として6校目の認定書をいただきました。

旭川支部

支部長 山本 周男

今年度旭川支部は、旭川大学高校が校名も新たに旭川志峯高等学校となりまして山内亮二校長先生がご勇退され、新たなメンバーとして、菅野秀樹校長先生をお迎えして宗谷を含めた旭川支部全日制6校の支部活動となりました。

4月の支部総会は今年も5類移行前のコロナ禍の影響を受けましたが、支部総会終了後に、密を避けて短時間で慰労会を行うことができました。

諸先輩方が築いてこられた私中高旭川支部の良き伝統である私学間の密なる連携と公立校との競争と協調を継承、発展させるために新しい支部活動に力を尽くして参りました。

旭川市内を含めた上川南学区では令和5年度入試で中学校卒業生徒数が169名減と厳しい状況でありましたが、その影響を最小限に食い止め市内私立5校定員1,136名に対して入学者1,145名でした。次年度の令和6年度入試においては、12月段階で市内私学5校合計2,600名ほどの出願者が見込まれ、私学への大きな期待が伺えます。

生徒の活動では実業高校の春高バレー女子21回目の優勝と全国第3位、女子サッカー部の全国出場、龍谷高校の12年連続全国駅伝、手前味噌ながら藤星高校の弁論部、箏曲部の全国出場など、日常の生徒指導に力を尽くしている先生方の成果が表れています。

今後もそれぞれの建学の精神を軸に、更に特色のある時代を先駆けた教育活動を推進し、道北に私学ありと誇れる学校経営を互いに切磋琢磨しあいながら進めていく所存です。

☆旭川支部主な活動

1 旭川市内中学校長会及び上川管内中学校長会との合同懇談会

開催日: 令和5年6月5日(月)

場 所: アートホテル旭川

出席者: 市内各私立高等学校長(クラーク記念国際高校含む)、旭川市中学校長会役員(8名)、上川管内中学校長会役員(8名)

支部の声

課題:令和6年度入学者選抜検査日程等、「就学支援金制度」、Web出願等、中学校側からの意見交換、コロナ5類移行後における中高連携の在り方

2 支部会議の開催

(1) 第1回

開催日:令和5年4月17日(月)

場 所:アートホテル旭川

出席者:各学校長、副校長、教頭、事務長他(25名)

議 題:令和4年度事業報告収支決算報告、令和5年度事業計画、予算案
令和5年度入学者数確認
令和6年度入試日程等について
公立高校配置計画に係る修正意見要望について

(2) 第2回

開催日:令和5年6月22日(木)

場 所:名寄市 駅前交流プラザ「よろーな」

出席者:各学校長、クラーク記念国際高等学校副校長他(8名)

議 題:令和5年度 各校の募集行事日程確認
中高情報交換会議のまとめと就学支援金制度パンフレット配布確認
令和8年度公立高校配置計画案等に係る修正要望
Web出願に係る中学校教員への説明、周知、確認について

(3) 第3回

開催日:令和5年12月8日(金)

場 所:旭川藤星高等学校 クサベラ館

出席者:各学校長、副校長、教頭他(12名)

議 題:令和6年度入学者選抜に係る入試業務日程等の確認(追試験含む)
令和6年度入学者選抜に係る志願者事前受付状況
令和6年度第1回支部会議について

3 その他

地域別公私立高等学校協議会(上川南学区)

開催日:令和6年1月24日(水)10:30~12:00

場 所:旭川藤星高等学校 クサベラ館

胆振支部

支部長 山口 祐正

今年度よりコロナも5類に変更され、学校行事もほぼ通常通り行われるようになりました。胆振支部の定例総会や連絡協議会も正常化し、4月には4年ぶりに一堂に会して総会後に昨年就任された駒澤大学附属苫小牧高校の金野校長先生の歓迎会も兼ねて懇親会を執り行うことが出来、ひとしお嬉しく思います。支部長として今年2年目となり任期満了となります。

支部の声

公立高校配置計画においては、西学区では7年度において公立分間口換算2間口減のところ、配置計画で1間口減であった。このため、令和8年度で3間口減を要望しましたが、間口減は全く行われませんでした。このことは、当学区私学にとっては今後の経営に深刻な影響が予想されます。中卒者減に全く見合わないことから6年度の配置計画に当たっては間口減を強く要望してまいります。

また、近年不登校生徒が過去最高を更新し、通信制高校入学者が年々増加傾向にあります。

設置認可行政において通信制高校は入学定員の調整対象から外されております。今後は通信制高校への入学者の動向を注視し、継続して入学する状況となった場合には、配置計画においてこのことも踏まえて検討を要すると思われまます。

東学区については、従来は増減を繰り返しており、間口減は相殺されてきましたが、8年度からはいよいよ減少の一途をたどります。市内の再編計画も含め、早期に明確な方針を定めていただきたいものです。

また、当学区には、定員調整に手が及ばない有朋高等学校連携の高等専修学校も存在しておりますし、国立の高等専門学校があります。定員をオーバーしており、学則定員を遵守するよう今後も国に対して要望を続けてまいります。

以前より当支部が要望しております40人定員の見直しについては、従来の間口減だけではなく、学区内で一律に1学級あたりの募集人数を減ずることにより、学区全体で生徒減少分をまかなえるならば、特定の高校での間口減の痛みを回避でき、中卒者数の増減にも柔軟に対応でき、同時に教育の質的向上も期待できるはずです。

義務教育である小学校の学級編成でも35人学級に段階的に引き下げられ、その後は中学校が35人学級を実施していく流れである。今以上の教育環境の充実に努めるためにも40人以下学級に向け、国に対して定数改善に努めて頂きたい。そうすることによって中卒者数の増減に柔軟に対応出来るとともに、間口減の痛みももたわず、少人数教育により教育の質的向上も果たせると考えます。

また、北海道は特殊な広域分散社会であり、本道独自の少人数学級の導入も検討すべきではないかと考えます。

毎年数回にわたり公立高校配置計画、地域別協議会がもたれておりますが、地域別協議会はそれぞれの学校から出された意見などを含めて反映をして、配置計画などをこれから決めていくという、その土台にこの協議会があると思えます。

私学は教育と同時に学校経営をしなくてはなりません。経営の安定が大前提であり、その基本は生徒の確保にあります。

私学に配慮した削減をお願いするとともに、今後も私学が地域でさらに教育を担っていただけるような定員調整をお願いしたい。

今後とも各校の建学の精神と教育理念に基づき特色ある教育活動を推進し、私学5校連絡協議会を通して連携を密にして、問題解決、教育の充実に努めてまいります。

令和5年度 胆振支部主な活動

○定例総会

日時：令和5年4月21日(金)午後2時

場所：苫小牧中央高等学校

議題：令和4年度決算について、令和5年度事業計画(案)、令和5年度予算(案)、入試状況報告、情報交換、その他

報告事項：第1回理事会・支部長会報告、第1回教育振興部会報告、第2回公立高等学校協議会報告

支部の声

○第1回連絡協議会

日時: 令和5年7月14日(金)午後1時

場所: 苫小牧中央高等学校

議題: 第2回教育振興部会報告、第3回北海道公私立高等学校協議会報告、第2回公立高等学校配置計画について(胆振西・東学区)、情報交換、その他

○第2回連絡協議会

日時: 令和5年12月18日(月)午後2時

場所: 苫小牧中央高等学校

議題: 第3回教育振興部会報告、第1回北海道公私立高等学校協議会報告、公立高等学校配置計画について(胆振西・東学区)、情報交換、その他

○第3回連絡協議会

日時: 令和6年3月8日(金)

場所: 苫小牧中央高等学校

議題: 地域別公私立高等学校協議会について、情報交換、その他

○その他

地域別公私立高等学校協議会

日時: 令和6年1月15日(月)

場所: 胆振東 苫小牧中央高等学校(胆振東学区)
胆振西 海星学院高等学校(胆振西学区)

道東支部

支部長 嶋野 幸也

思えば今年の夏は暑かった。巷では酷暑とも言われ、熱中症で子どもの命が奪われる事故が起きたのも記憶に新しい。そのような中、多くの学校現場で、臨時休校や短縮授業などの対応に追われていたように感ずる。感じるというのは、本校では一切そういった対応は行わなかったからである。当然ながら、生徒達から「どうしてうちの学校は休みにならないの?」との疑問の声が聞かれた。私は「暑いからといって休んだり、早仕舞いする会社がどこにある? 君達は、卒業後そういう社会に出て行くんだぞ。冷房の効いたオフィスばかりじゃないし、場合によっては、炎天下の外での作業もしなければならない。それが大人の世界であり、働いてお金をいただくということだ。小学生ならいざ知らず、高校生にもなったら、どうやって熱中症に罹らないようにしながら、この暑さを乗り越えていくか、そういうことを考えなさい。」と。生徒達は不満顔ではあったが、以前行った〇〇製薬の熱中症対策講習の甲斐もあって、熱中症で具合が悪くなった生徒は皆無であった。

これはあくまでも私の教育観である。教育が国づくりの根幹であるならば、過保護にして、軟弱な生徒を育成する考えは毛頭無い。「生徒が熱中症で亡くなったらどうするんだ?」との声が聞こえてきそうで、今般の道の補正予算に盛り込まれた簡易型エアコンの整備も、そういった危機意識からきているものだと思う。

しかしである。問題の根幹的な解決方策は、教室だけでなく自由に行動する生徒一人ひとりが、自ら熱中症に罹らないためにどうしたらよいのかを学習し、会得させることではないのか。むしろ

支部の声

私は、過保護にして、軟弱に育てられた生徒が、社会に出て将来のこの国を背負って立てるのか、そちらの方に危機感を持つのである。

昨今、夏休み・冬休みの期間をどうするかで議論百出となっている。一事が万事、最後の責任を現場に委ねるからいけないのではないか。確かに道内でも内陸の盆地ではかなり気温が高くなり、道東などの沿岸では割と涼しい所もある。地域の実情に合わせてと言うのは一理あるように思うのだが、それならば今まで一律の期間でやってきたのは何であったのか。どうにも腑に落ちないやり方と言わざるを得ないが、いずれにしても休みが増えることは、この老体にとってはありがたいことだと心の内では感謝している。

不登校の子どもが30万人を数えるという。不登校の原因は多岐にわたっているが、医者から診断が下されるような病的なものを除くと、ほとんどは友達をはじめとする人間関係のトラブルである。多感な年頃だからといえばそれまでかもしれないが、もめ事のきっかけや中身を聞き取りすると実に幼稚極まりないことだらけである。痴話げんかのようなものであればそれほど心配はしていないが、これにSNSが絡むと容易ならざる事態に発展してしまうのが今日である。自分の裸の写真を送って欲しいと言われて、ハイそうですかとばかりに送ってしまうこの無防備な感覚は一体どこから生まれてくるのか。拡散され、警察沙汰になって初めて、自分の愚かさに気づいても時すでに遅しである。

教育の専門家でもない私には到底分からないことであるが、こうした子供達を見ていると、どうも我が国の教育のあり方に問題があったように思えてならない。そのことが、昨今の日本の国力の低下に表れているのではないだろうか。「教育は国づくりの根幹であり、百年の大計である。」教育に携わる者として、今一度肝に銘じたいと思っている。

<令和5年度 道東支部の活動内容>

- 令和5年 5月19日(金) 道東支部総会及び教育懇談会
- 令和5年 6月 5日(月) 帯広市中学校長会事務局・十勝小中校長会事務局との連絡協議会
- 令和5年10月10日(火) 私学3校合同入試説明会
- 令和5年12月12日(火) 帯広市中学校長会事務局・十勝小中校長会事務局との連絡協議会
- 令和6年 1月17日(水) 地域別公私立高等学校協議会(北見)
- 令和6年 1月29日(月) 地域別公私立高等学校協議会(釧路)
- 令和6年 1月30日(火) 地域別公私立高等学校協議会(十勝)

理事長・理事・校長研修会

小樽支部長(小樽双葉高等学校長 倉内慶一)

令和5年度理事長・理事・校長研修会(トップセミナー)は、令和2年に旭川支部が実施して以来、3年ぶりの開催となります。5月に新型コロナウイルス感染症の分類が5類に移行されたとはいえ、収束が見通せない中ではありましたが、全道から50名もの参加者がありました。

研修テーマは、「アフターコロナの未来を担う魅力あふれる私学教育」といたしました。

令和2年から続くコロナ禍にあって、我々の生活様式や人との関わり方が大きく変化した一方で、生成 AI の進化は世界を根本から変えつつあります。私立学校は、それぞれが建学の精神に則り、魅力ある学校づくりを展開してきましたが、今後さらに、未来に向けて魅力あふれる学校づくりをしていかなければなりません。そういう思いをこめてテーマを設定いたしました。

開会式では、北海道知事代理、北海道後志総合振興局長 猪口 浩司 様、北海道議会議長 富原 亮 様、北海道教育庁後志教育局長 新居 雅人 様のご臨席を賜り、それぞれからご挨拶をいただきました。



講演 I は小樽商工会議所業務課プロジェクト担当課長 笹原 馨 様による「オタモイ開発と地域活性化」。昭和27年に焼失した竜宮閣を再建しようと昭和33年、昭和52年に試みて実現しなかったオタモイ開発を、ニトリホールディングスの似鳥会長から依頼を受け、実現に向け取り組んでいるという内容で、新たなプロジェクトの実現に伴う困難に立ち向かう姿勢は、学校課題の解決に示唆を与えるものでした。

講演 II は弁護士法人シティ総合法律事務所代表弁護士 中村 浩士 様による「私立中学・高校における教職員の働き方改革」がテーマです。労働基準監督署の立ち入り調査を受け是正勧告・指導を受ける学校が増加している中、「働き方改革法」に沿った対応をするためには、管理職による強いリーダーシップの元、36協定締結はもちろん、出退勤時間を把握し、仕事の無駄を見抜く必要があるとのことでした。



について丁寧に説明をいただきました。

北海道総務部教育・法人局学事課課長補佐 中島 健 様からは、講話 II 「北海道私学の現状と課題」で、学校の入学定員と中卒者の推移、耐震化の状況、いじめやヤングケアラーなど生徒を取り巻く課題などについて詳しく説明をいただきました。また、令和5年度私学関係予算についても補助金、助成金を中心にお話をいただきました。

一般財団法人日本私学教育研究所理事 中川 武夫 様による講話 I 「私立学校の現状と課題」として、生成 AI が大きな問題になっており、学校現場では禁止一辺倒ではなく、使い方を教育する必要があることが強調されました。また、私学の原点は建学の精神であること、入試問題と著作権の関わり



理事長・理事・校長研修会

小樽支部長(小樽双葉高等学校長 倉内慶一)

最後は北海道私立中学高等学校協会 明上山副会長から、「令和6年私学振興予算要望方針等」として、北海道に対して強く要望してきた管理運営対策補助金増額、耐震化の支援、ICT 環境の整備促進、保護者負担軽減対策、二次募集の廃止等について具体的な説明がありました。

親睦懇親会は、4年ぶりとなるだけあって、格別に和やかな時を過ごすことができました。小樽の銘酒「寶川」(田中酒造)も花を添えてくれました。

今年度は、昨今の世界的な情勢によって会場費等が高騰し、会計的には苦しい運営でありました。そのため、開催案内や研修資料、集合写真等をメールで送信するなどこれまでとは異なる対応をいたしました。参加者には多大なご負担をかけたのだと思いますが、皆様のご理解とご協力のおかげで、初期の目的を達成することができました。

次回は令和6年10月17日(木)、18日(金)の日程で、函館市で行われます(担当校 函館白百合学園中学校・高等学校)。是非参加を予定していただければと思います。



私立高等学校周年行事記念式典

学校法人 北海道科学大学 北海道科学大学高等学校



式典名 HUSオープニングフェス
【学校法人北海道科学大学
法人創立100周年記念事業】

開催日 令和5年4月8日(土)

場所 【第1部】 北海道科学大学高等学校体育館
【第2部】 北海道科学大学高等学校 LINKS Hall
【第3部】 北海道科学大学E棟・北海道科学大学高等学校 LINKS Hall

出席人数 第1部800名・第2部95名・第3部717名

特記事項 【第1部】 北海道科学大学高等学校入学式
【第2部】 北海道科学大学高等学校新校舎・100周年記念会館披露式典
【第3部】 特別イベント
・特別講演会:杉村 太蔵 氏
「シン・地方創生ー地域と大学のシナジーについてー」
・サイエンスワークショップ
・チャレンジ工房
・図書館大登録会
・短編映画上映会
・ステージパフォーマンス(高校合唱部、大学 YOSAKOI ソーラン部、
大学卒業生アーティスト SE-NO)
・バレー紅白戦、バレー教室(アルテミス北海道)

学校法人 酪農学園 酪農学園大学附属 とわの森三愛高等学校

式典名 学校法人酪農学園創立90周年記念式典

開催日 令和5年9月29日(金)

場所 札幌ガーデンパレス

出席人数 250名

特記事項 式典終了後、同会場にて
祝賀会を開催した



私立高等学校周年行事記念式典

学校法人 帯広大谷学園 帯広大谷高等学校

- 式典名 学校法人帯広大谷学園
帯広大谷高等学校
創立100周年記念 慶讃法要・記念式典
- 開催日 2023年10月3日(火)
- 場所 帯広市民文化ホール
- 出席人数 高等学校生徒850名、短大学生270名、
幼稚園年長児50名、教職員80名、
来賓112名(1,362名)
- 特記事項 ・体育館内包型新校舎建築及び旧校舎改築
・記念誌発行
・アップダウン二人芝居公演



学校法人 函館大妻学園 函館大妻高等学校

- 式典名 学校法人函館大妻学園
函館大妻高等学校
創立100周年記念式典
- 開催日 令和5年10月5日(木)
〔令和5年10月4日(水)先生・生徒式典〕
- 場所 記念式典 函館大妻高等学校体育館
記念祝賀会 函館国際ホテル(天平)
- 出席人数 記念式典 540名〔4日と5日の合計人数〕
記念祝賀会 190名
- 特記事項 1. 記念式典
第一部 アトラクション
現存する日本最古の西川ピアノによる演奏
スライドショー(～大妻100年の軌跡を辿る～)
生徒製作衣装によるファッションショー
吹奏楽部による演奏
第二部 式典
2. 100周年記念事業
(1) 本校舎改築、東・西校舎増改築、体育館暖房設備設置、外構工事
(2) 新制服の導入(令和3年)



北海道社会貢献賞（私学教育功績者）



永年にわたり私学教育の向上に専心され、本道の私学振興に多大な貢献をされている方々に贈られる、令和5年度「北海道社会貢献賞（私学教育功績者）」の表彰式が、10月30日（月）札幌ガーデンパレスにおいて挙行された。

当協会からは、学校法人望洋大谷学園理事・北海道大谷室蘭高等学校校長の竹本将人様と学校法人京都市英館理事・北海道栄高等学校校長の渡邊和弘様のお二人が受賞された。

竹本先生、渡邊先生には、今後ますますお元気でご活躍されますことを祈念申し上げます。

《竹本将人様のご略歴・ご功績》

【ご略歴】

昭和57年 東京理科大学理工学部物理学科卒業

昭和59年 登別大谷高等学校教諭

平成14年 登別大谷高等学校教頭

平成15年 登別大谷高等学校校長

平成15年 学校法人登別大谷学園理事

（現：学校法人望洋大谷学園）

平成25年 北海道大谷室蘭高等学校校長

【ご功績】

登別大谷高等学校教諭として勤務後、同校の教頭及び校長を経て、平成15年から学校法人登別大谷学園理事（現：学校法人望洋大谷学園）に就任、現在は北海道大谷室蘭高等学校校長として、永年にわたり高等学校教育の充実と発展に貢献している。建学の精神に基づく教育活動を通じて、感謝できる心や思いやりの心を身につけさせるなど、社会に貢献できる生徒の

北海道社会貢献賞（私学教育功績者）

育成に力を発揮し、多くの人材を社会に送り出してきたとともに、学校法人望洋大谷学園の設立に尽力し、北海道大谷室蘭高等学校を開校させるなど、胆振西学区の課題であった中学校卒業者の進学率の向上に貢献した。また、北海道私立中学高等学校協会理事、同協会胆振支部長等を歴任するなど、本道の私学教育及び高等学校教育の振興発展に果たした功績は顕著である。

《渡邊和弘様のご略歴・ご功績》

【ご略歴】

昭和60年 東海大学体育学部社会体育学科卒業
昭和60年 埼玉栄高等学校教諭
平成15年 埼玉栄高等学校保健体育科主任教諭
平成22年 さとえ学園小学校次長
平成24年 埼玉栄高等学校保健体育科次長
平成26年 北海道栄高等学校教頭
平成27年 北海道栄高等学校副校長
平成27年 北海道栄高等学校校長
平成29年 学校法人京都市育英館理事
平成30年 苫小牧駒澤大学副学長・事務局長

【ご功績】

埼玉栄高等学校、さとえ学園小学校での勤務を経て、平成27年に北海道栄高等学校校長に就任、苫小牧駒澤大学副学長を兼務し、現在は学校法人京都市育英館理事として、永年にわたり私学教育の充実と発展に貢献している。特に北海道栄高等学校校長に就任後は、私学独自の教育理念に基づく教育の重要性を掲げ、生徒の進路や部活動の実績の向上に努め、同校を高い定員の充足率を確保するまでの学校へと発展させた。また、令和3年には個別性を重視した学びを提供できるアフタースクールを開校したほか、白老町の中学3年生を対象とした「白老寺子屋」に参加、北海道栄高等学校の教職員を講師とするなど、地域の教育活動の充実発展に大きく貢献している。北海道高等学校長協会私立部会理事等を歴任するなど、本道の私学教育、高等学校教育の振興発展に果たした功績は顕著である。

北海道私立中学高等学校保護者会連合会

令和5年度も、これまでと同様に「私学助成の拡充」と「父母負担の軽減」を目標に、全国的な組織である日本私立小学校中学校高等学校保護者会連合会や、全道的な組織である北海道私立中学高等学校協会と連携を密にしながら、積極的な要望活動を展開するとともに、保護者会の活性化を図るための活動に取り組んだ。主な活動は次のとおり。



1 北海道私立中学高等学校保護者会連合会定期総会及び講演会の開催

開催日 令和5年6月3日(土)

場 所 札幌ガーデンパレス

総会には、北海道私立中学高等学校協会の西岡会長を来賓としてお招きし、全道の保護者会の代表者など54名が出席した。令和4年度の事業報告と収支決算、令和5年度の事業計画と収支予算について審議が行われ承認された。

総会終了後の講演会では、株式会社ファイターズ スポーツ&エンターテインメント事業統轄本部小林兼統括部長を講師としてお招きし、「世界がまだ見ぬボールパーク～ファイターズが描く地域の未来」をテーマにご講演いただき、令和5年3月に開業した「北海道ボールパークFビレッジ」の構想や魅力などについて理解を深めた。

2 日本私立小学校中学校高等学校保護者会連合会令和5年度総会・研修会への参加

開催日 令和5年7月13日(木)～14日(金)

場 所 姫路市 ホテル日航姫路

「今こそ私学から発信～教育が未来を拓く～21世紀(あす)を担う子どもたちのために～」をテーマに姫路市で開催され、各都道府県から約130名が参加した。北私学保連から正副会長など4名が出席し、全国の保護者会の方々と交流を深めた。



北海道私立中学高等学校保護者会連合会

3 北海道私立中学高等学校保護者会連合会理事会の開催

開催日 令和5年10月14日(土)

場 所 札幌ガーデンパレス

2回目の理事会を開催し、令和5年度の活動経過及び令和6年度の私学予算の要望、今後の活動予定について協議を行った。

4 令和5年度青少年育成研修会への参加



開催日 令和5年11月17日(金)

場 所 盛岡市 ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング

「未来を創る力とは～専大北上高校の改革について～」、「宮沢賢治没後90年～イーハトーブの未来へ～」を演題とする2部形式で開催され、北私学保連から正副会長など4名が参加した。

5 要望活動等

(1) 私学振興全国大会への参加

開催日 令和5年11月1日(水)

場 所 東京都 文京シビックホール

全国の私学関係者とともに、私学振興に係る補助金等の拡充強化など、国に対する要望を決議した。

大会終了後は、衆参両議院会館において北海道選出国會議員等に要望活動を実施した。

(2) 私学振興に関する懇話会全道大会への参加

開催日 令和6年1月10日(水)

場 所 札幌ガーデンパレス

参加者 60名

北海道私学団体連合会が主催する全道大会に、会員が参加し、私学がおかれている厳しい状況について情報を共有するとともに、私学教育の充実発展を図ることを確認した。

6 公立高等学校配置計画地域別検討協議会への参加

道教委が、道内の学区ごとに市町村や学校(公立・私学)の関係者などと、公立高等学校の配置について意見交換を行う、公立高等学校配置計画地域別検討協議会に出席した。

北海道私立高等学校事務長会

会長 金村 周一 (北海高等学校事務長)

第45回北海道私立高等学校事務長会の「総会・研修会」は、新型コロナウイルス感染症及びインフルエンザの感染予防に配慮した対面形式で、4年ぶりに開催することができました。残念ながら皆さん一同に介しての懇親会は役員会の決定において、見送りさせていただきました。

本会は昭和54年「北海道私立高等学校事務連絡会」として発足し、学事課並びに私学諸団体の協力のもと、発足以来、第3回目までは札幌市内での総会・研修会でありましたが、親交を深めるとの観点から第4回目からは地域ごとの持ち回りで、毎年充実した研修会が開催されてきました。名称も平成4年の総会で「北海道私立高等学校事務連絡会」から現在の「北海道私立高等学校事務長会」と改められました。

北海道私立高等学校事務長会

会長 金村 周一（北海高等学校事務長）

この度の開催にあたっては、十勝地区の皆様方に準備と運営にご尽力をいただき、お陰をもちまして、事務長会の目的である「学校事務における共通の問題点を取り上げ研究・研修する」ことを無事に終えることができ、会員相互の情報交換を図ることができたのではないかと考えております。

◎令和5年度開催内容

開催日 令和5年10月26日（木）～27日（金）

開催場所 ホテル日航ノースランド帯広

1 総会審議事項

- (1) 令和4年度 事業報告と決算報告
- (2) 令和4年度 監査報告
- (3) 令和5年度 事業計画(案)と予算
- (4) 役員改選

2 研修内容

- (1) 「現役を離れて見えてくるものー私学の存在価値・私学人としての心構え」
学校法人 多田学園 元副理事長 鈴木 譲二 様
- (2) 「部活動民間移行の現状」 NPO 法人 おにスポ 理事長 磯田 大治 様
- (3) 「管理運営費補助金について」
北海道総務部教育・法人局学事課中高専修係 中村 俊太 様
- (4) 「アンガーマネジメント研修」
アンガーマネジメントプロフェッショナルインストラクター 林 祐利江 様

北海道私学団体連合会

10団体で構成する北海道私学団体連合会は、令和5年6月12日に北海道私学団体連合会代表者・事務局長会議を開催し、令和5年度事業計画について協議を行った。

当該連合会の主な事業は、「私学振興に関する懇話会全道大会の開催」「自民党道連団体政策懇談会での次年度予算の要望活動」「各種政経セミナーへの参加」など。

また、令和6年1月4日には、道から総務部長、教育・法人局長、学事課長、担当課長補佐の皆様を招いて新年互例会を開催し、懇親を深めた。

《北海道私学団体連合会構成団体》

議長 西岡 憲 廣

北海道私立中学高等学校協会、(公財)北海道高等学校奨学会、
(公社)北海道私学振興基金協会、(公社)北海道私学退職金社団、
(公社)北海道私立幼稚園協会、北海道私立幼稚園振興会、
(公社)北海道私立専修学校各種学校連合会、北海道学校法人立専修学校協会、
日本私立大学協会北海道支部、日本私立短期大学協会北海道支部
(事務局 北海道私立中学高等学校協会)

道教委 情報ボックス

公立高等学校配置計画（令和6年度（2024年度）～8年度（2026年度））の概要

○ 策定の考え方

〈趣 旨〉	高等学校進学希望者数に見合った定員を確保することを基本とし、中卒者数の状況を踏まえ、学校・学科の配置や規模の適正化を図るため、令和6年度（2024年度）～8年度（2026年度）の計画を策定するとともに、令和9年度（2027年度）～12年度（2030年度）までの見通しを示す。
〈基本的考え方〉	指針に基づき、教育水準の維持向上などを図る観点から、地域の実情等を考慮しながら、定員調整や再編整備等を行うとともに、多様なタイプの高校づくりを推進。
〈計画変更〉	配置計画を策定した後、急激な中卒者数の増減、市町村立高校や私立高校の設置・廃止により生徒の進路動向に大きな変動が生じた場合などは、計画を再検討。

1 令和6年度（2024年度）高校配置計画の変更について（計画案からの変更箇所は、下線のとおり）

区 分	学 校 名	計 画 変 更 の 内 容																														
全 日 制	学級増 +14	<table border="1"> <tr> <td>岩見沢東</td><td>+1</td> <td>倶知安</td><td>+1</td> <td>湧別</td><td>+1</td> </tr> <tr> <td>長沼</td><td>+1</td> <td>川</td><td>+1</td> <td>清木</td><td>+1</td> </tr> <tr> <td>深川西</td><td>+1</td> <td>良野</td><td>+1</td> <td>池田</td><td>+1</td> </tr> <tr> <td>野幌</td><td>+1</td> <td>高砂</td><td>+1</td> <td>別</td><td>+1</td> </tr> <tr> <td>石狩翔陽</td><td>+1</td> <td>美幌</td><td>+1</td> <td></td><td></td> </tr> </table> <p>○令和5年度（2023年度）の入学者選抜の結果、学級減を行った18校のうち、14校について、中卒者数の状況などを勘案し、それぞれ1学級増</p>	岩見沢東	+1	倶知安	+1	湧別	+1	長沼	+1	川	+1	清木	+1	深川西	+1	良野	+1	池田	+1	野幌	+1	高砂	+1	別	+1	石狩翔陽	+1	美幌	+1		
	岩見沢東	+1	倶知安	+1	湧別	+1																										
	長沼	+1	川	+1	清木	+1																										
深川西	+1	良野	+1	池田	+1																											
野幌	+1	高砂	+1	別	+1																											
石狩翔陽	+1	美幌	+1																													
学科転換 （普通科新学科の設置等）	大 樹 釧路湖陵	<p>○国の普通科改革を踏まえ、普通科を普通科新学科である地域探究科及び文理探究科にそれぞれ学科転換</p> <p>○釧路湖陵の理数科を理数探究科に学科転換</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="2">学科転換前</th> <th colspan="2">学科転換後</th> </tr> <tr> <td>大 樹</td> <td>普通科(1学級)</td> <td>地域探究科</td> <td>(1学級)</td> </tr> <tr> <td>釧路湖陵</td> <td>普通科(5学級)</td> <td>文理探究科</td> <td>(4学級)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>理数科(1学級)</td> <td>理数探究科</td> <td>(1学級)</td> </tr> </table>	学科転換前		学科転換後		大 樹	普通科(1学級)	地域探究科	(1学級)	釧路湖陵	普通科(5学級)	文理探究科	(4学級)		理数科(1学級)	理数探究科	(1学級)														
学科転換前		学科転換後																														
大 樹	普通科(1学級)	地域探究科	(1学級)																													
釧路湖陵	普通科(5学級)	文理探究科	(4学級)																													
	理数科(1学級)	理数探究科	(1学級)																													
単位制の転換	札幌白陵	○生徒の特性や進路希望等を踏まえた教育課程の改善・充実を図るため、単位制を学年制に転換																														

2 令和7年度（2025年度）高校配置計画の変更について（計画案からの変更箇所は、下線のとおり）

区 分	学 校 名	計 画 変 更 の 内 容																				
全 日 制	学級減	深川東	○生徒の進路動向を考慮し、総合ビジネス科を学級減																			
	学級減・学科転換	室蘭工業	○学級減に伴い、建築科及び環境土木科を建設科に学科転換	学科転換前		学科転換後		室蘭工業	建築科(1学級)	建設科	(1学級)		環境土木科(1学級)									
	学科転換前		学科転換後																			
	室蘭工業	建築科(1学級)	建設科	(1学級)																		
	環境土木科(1学級)																					
再編統合・普通科新学科の設置・単位制導入	新設校 +6 (岩見沢市内)	○生徒の進路動向や学校・学科の配置状況、地域の要望などを勘案し、普通科新学科2学級及び普通科4学級を設置するとともに、生徒の多様な興味・関心や進路希望等に応じた主体的な学習が可能となるよう、単位制を導入	再編統合前		新設校		岩見沢東	普通科(5学級)	普通科新学科	(2学級)	岩見沢西	普通科(3学級)	普通科	(4学級)			※新学科の名称は引き続き検討					
再編統合前		新設校																				
岩見沢東	普通科(5学級)	普通科新学科	(2学級)																			
岩見沢西	普通科(3学級)	普通科	(4学級)																			
		※新学科の名称は引き続き検討																				
再編統合	新設校 +5 (富良野市内)	○生徒の進路動向や学校・学科の配置状況、地域の要望などを勘案し、普通科3学級、工業科1学級、農業科1学級を設置し、工業科の小学科は電気情報システム科、農業科の小学科は園芸観光デザイン科とする	再編統合前		新設校		富良野	普通科(4学級)	普通科	(3学級)	富良野緑峰	総合ビジネス科(1学級)	電気情報システム科	(1学級)		電気システム科(1学級)	園芸観光デザイン科	(1学級)		園芸科(1学級)		
再編統合前		新設校																				
富良野	普通科(4学級)	普通科	(3学級)																			
富良野緑峰	総合ビジネス科(1学級)	電気情報システム科	(1学級)																			
	電気システム科(1学級)	園芸観光デザイン科	(1学級)																			
	園芸科(1学級)																					

3 令和8年度（2026年度）の高校配置計画について（学校名の*は、市町村立高校）

区 分	学 校 名	主 な 計 画 の 内 容	
全 日 制	学級減	函館水産 ▲1	○通学区域内の中卒者数を基礎として、生徒の進路動向や学校・学科の配置状況、在籍状況などを勘案し、学級減
	募集停止	奈井江商業 ▲1	○中卒者数の状況、学校規模、募集定員に対する欠員の状況、地元進学率などを勘案し、募集停止
定 時 制	総合学科の設置	*ニセコ	○設置者（ニセコ町）の決定により、生徒の多様な興味・関心に応じ、幅広い進路希望に対応することが可能となるよう、農業科を総合学科に学科転換

道学事課からのお知らせ

令和5年度私立学校等管理運営対策費補助金について

私立学校の教育条件の維持向上及び修学上の経済的負担軽減を図るとともに、経営の健全性を高め、もって私立学校の教育の振興を図ることを目的として、学校法人へ補助しています。

厳しい道財政ではありますが、皆様方のご意見なども踏まえながら、定員遵守の徹底、教育の特色性の向上、保護者負担軽減といった観点により、効率的・効果的な配分に努めています。

1 管理運営対策費補助金

(1) 高等学校

	単価 (円)		総額 (千円)	
		(前年度比)		(前年度比)
R 5	369,148 円	3,992 円 (1.1%)	10,953,360 千円	▲161,989 千円
R 4	365,156 円	3,447 円 (1.0%)	11,115,349 千円	133,139 千円
R 3	361,709 円	3,192 円 (0.9%)	10,982,210 千円	112,691 千円

・過疎区域対策費 総額 157,581 千円 [前年度と同額]

・小規模校経営改善促進費 総額 230,000 千円 [前年度と同額]

(2) 中学校

	単価 (円)		総額 (千円)	
		(前年度比)		(前年度比)
R 5	346,130 円	3,883 円 (1.1%)	1,012,431 千円	▲56,065 千円
R 4	342,247 円	4,796 円 (1.4%)	1,068,496 千円	▲212 千円
R 3	337,451 円	4,141 円 (1.2%)	1,068,708 千円	88,109 千円

(3) 価格高騰対策

令和4年度(2022年度)から、国の交付金を活用し、原油価格・物価高騰対策に取り組んでいます。

○スクールバス燃料費高騰対策事業

- ・通学環境が維持されるよう保護者の負担軽減に向けた燃料費高騰分の経費を支援

○給食原材料費等支援事業

- ・保護者の負担軽減に向けた給食原材料費等の経費を支援

○物価高騰対策支援事業（電気料金）

- ・電気料金高騰の影響を受けている私立学校等に対する支援

(4) 私立学校施設の耐震化

ア 私立学校施設の耐震改修状況等実態調査について

本道の私立学校の耐震化率は、全国平均を下回っている状態にあり、できるだけはやく校舎等の耐震化を実施する必要があります。

道学事課からのお知らせ

○ 私立高等学校等の耐震改修状況等（令和4年4月1日現在）

	診断実施率	耐震化率	全国順位
北海道	84.5%	77.1%	46位
全国平均	89.6%	93.3%	

イ 耐震化補助制度について

【国】私立学校施設整備費補助金（診断、補強、改築）

【道】私立学校施設耐震診断事業費補助金（診断） ※1

【道】私立学校施設耐震化支援事業費補助金（補強、改築） ※1

	耐震診断	耐震補強	耐震改築
対象施設	幼稚園、小中高、専修学校		幼稚園、小中高
補助率	国 1/3 : 道 1/3 : 学校 1/3	国 1/3 : 道 1/6 : 学校 1/2 ※2	
補助上限額	75万円	幼稚園 16,666千円/棟、小中高 33,333千円/棟	

※1 国庫補助の交付決定を受けた事業を補助対象とします。

※2 Is値0.3未満の建物を耐震補強する場合の補助率は、国 1/2 : 道 1/6 : 学校 1/3 となります。

いじめ防止に向けた取組の徹底について

いじめは、どの学校、どのクラスにも、どの子どもにも起こりうるという認識の下、組織的に対応することが重要です。「いじめ防止対策推進法（以下、法という。）」を踏まえ、次の点に留意し、いじめ防止対策を徹底していく必要があります。

1 いじめの定義の理解と法に基づくいじめの積極的な認知

児童生徒が心身の苦痛を感じている場合は、全て「いじめ」に該当するという法の定義に基づき、学校としていじめを積極的に認知する。

2 早期からの組織的対応の徹底

教職員がささいな兆候や懸念、児童生徒の訴えを抱え込まずに、速やかに法により全ての学校に設置されている「学校におけるいじめの防止のための組織」に報告を行うことを徹底するとともに、初期段階での解決に向けて、迅速かつ組織的にいじめの状況を確認し、適切な役割分担により対応を行う。

3 未然防止

児童生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、信頼関係づくりに努めるとともに、児童生徒の不安や悩みに対して、スクールカウンセラー等を含む全ての教職員がいつでも相談できる体制を整備する。

4 保護者・地域・関係機関の協力を得る

学校ホームページへの掲載や、学校内への掲示などの方法により、日頃から、保護者等にいじめの定義や学校いじめ防止基本方針を分かりやすく伝える。

また、いじめが認知された場合は、被害・加害児童生徒の保護者に対して「学校いじめ対策組織」による解決に向けた対応方針を伝え、信頼関係の下に理解と協力を得られるよう努める。

私学情報の発信

【北海道私立学校展】

令和5年度は9月3日（日）に札幌ガーデンパレスで開催した。36回目となる今回は、道内の中学校9校と高等学校26校の合計35校が出展した。

札幌ガーデンパレス2階フロアを使って、各学校の相談ブースをはじめ、制服展示コーナーや、就学支援金等相談コーナー、パンフレットコーナーを開設した。

昨年引き続き事前予約制の時間入れ替え制とし、1回あたり450名を4回入れ替えて実施した。

午前10時の開場と同時に、多くの児童・生徒や保護者の皆さんが来場し、関心のある学校のブースで、担当の先生の説明を熱心に聞き入っている姿が多く見られ、進路選択の参考としていた。



相談件数は、昨年より3割以上増の、全体で1,560件であった。なかでも中学校の相談件数が増えており、昨年の2.5倍以上の180件であった。

日本政策金融公庫や北海道高等学校奨学会等による「就学支援金等相談コーナー」においては、保護者の皆さんが相談を行っていた。

この他、制服メーカー各社のご協力による制服展示コーナーにおいても、児童・生徒や保護者の皆さんが、気になる学校の制服を見比べたり、写真を撮影したりしていた。



会場入口近くに設けられたパンフレットコーナーは、1か所で多くの私学の資料を入手できると好評で、来場者の皆さんが、関心のある学校のパンフレットなどを持ち帰っていた。



来場された方々からのアンケートでは、「いろいろな私立高校のお話が聞けて制服展示などもありとても参考になった。最終進路を決めるのに役立てたい」、「具体的に志望校についてイメージできてとても良かった」、「丁寧に対応してくださってありがたかった」などといった意見が寄せられた。

今後も、道内の私立中学・高等学校が連携しながら様々な機会を通じて、私学の魅力や特徴などを発信していくこととしている。

私学情報の発信

【私学ナビ】

令和5年7月に、道内に所在する私立中学・高等学校のガイドブック「私学ナビ（2024年版）」を発行し、道内の小学校と中学校、関係機関などに配付した。

私学の特長や豊富な写真で私学の良さをアピールした「私学のいいところを見つけよう！」コーナー、それぞれの学校の特色やアピールポイント、学科・コースなどの情報を盛り込んだ学校紹介コーナーのほか、入試日程や納付金内訳、オープンスクールの日程などを一覧表で掲載している。

夏休み期間中に、ご家庭で進路選択の検討材料としてご活用いただけるよう、修学支援金制度のリーフレットと併せて、夏休みが始まる7月下旬までに各学校にお届けした。

今後も編集内容を工夫し、見やすく分かりやすい誌面づくりを通じて、小中学生・保護者の皆さんに一層親しまれ、活用される「私学ナビ」の発行に取り組んでいく。

私学ナビをご希望される方は北海道私立中学高等学校協会事務局まで。

【ホームページ】

インターネットを活用した情報発信の充実を図り、子どもたちにも親しみやすく分かりやすい情報を提供するため、ホームページを開設し、学校紹介や入試関連情報、修学支援制度など私学の特色や魅力、関連情報を発信している。

アドレスは次のとおり。

URL:<https://www.doshigaku.jp>

【修学支援リーフレット】

国の就学支援金制度や道の授業料軽減補助制度、奨学のための給付金制度、北海道高等学校奨学会の貸付制度等を紹介するリーフレットを18万部作成した。会員校が生徒募集資料として活用するとともに、全道の中学生と小学校6年生全員に対して配付し、制度の周知に努めた。



私学関係団体

基金協会

1. 貸付事業

令和5年度貸付事業については、以下の見込みとなっています。
(千円)

資金名	予算額	貸付額		条件		
		校数	金額	期間	利率	限度額
施設整備資金	500,000	3	230,000	10年(2)	0.60%	一般資金 120,000 特別資金 50,000
環境整備資金	400,000	5	180,600	6年(1) 10年(2) 15年(2)	0.40% 0.60% 0.30%	120,000
経営安定資金	900,000	6	240,000	7年(2)	無利子	60,000
短期経営安定資金	500,000	8	90,000	6ヶ月以内	無利子	15,000
私立幼稚園等 短期経営安定資金	100,000	1	3,000	年度内	無利子	3,000
合計	2,400,000	23	743,600	-	-	-

3. 助成事業

令和5年度助成事業については、以下の見込みとなっています。
(千円)

資金名	予算額	助成額		条件	
		校数	金額	期間	利子補給率・限度額
経営資金利子 補給金	3,000	6	1,461	幹旋期間	1.0%
耐震診断助成金	10,000	0	0	-	1校当たり 2,000 (経費の1/2以内)
防災・省資源等 助成金	30,000	14	24,400	-	1校当たり 2,000 (経費の1/2以内)
合計	43,000	20	25,861	-	-

2. 融資幹旋事業

令和5年度融資幹旋事業については、以下の見込みとなっています。
(千円)

資金名	予算額	幹旋額		条件	
		校数	金額	期間	利率
長期経営資金	1,200,000	1	16,000	5年以内 11年以内 (うち据置1年)	短期プライムレート+0.5% 短期プライムレート+0.7%
短期経営資金	900,000	4	130,000	1年以内	短期プライムレート
合計	2,100,000	5	146,000	-	-

4. 私学経営等研修会

令和5年度私学経営等研修会については、次のとおり3回実施しました。

区分	対象	開催日	参加者
1. 私学経営研修会	全法人	10/11	96名
2. 私学経営実務研修会			
(1) 給与等関係	全法人	11/17	64名
(2) 労務・会計等関係	25日-全法人 26日-高校 幼稚園	1/25・26	89名
合計	-	-	249名

退職金社団

退職金資金給付の状況について

今年度の退職金資金の給付額は、令和5年12月末現在で1,132,179,147円(退職者122人)です。

過去5年間の給付額を見ると、平成30年度130人1,246,876,548円、令和元年度108人829,510,095円、令和2年度131人1,006,075,149円、令和3年度120人1,113,961,598円、令和4年度108人1,162,724,118円となっています。当社団の退職金資金給付は、平成15年度に最高値の約29億円を給付しましたが、その後は減少傾向にあり、平成19年度からは、8億円から15億円強の間で推移しています。退職資金事業の積立金につきましては、今年度から、負担金率を171%から154%に引き下げましたが、今年度末においても順調に積み上がる見込みとなっています。

7大府県 令和4年度退職資金交付状況

区分	登録教職員数 (人)	退職者数 (人)	退職率 (%)	退職資金 交付者数 (人)	退職資金交付総額 (円)	退職者一人当り 平均交付額 (円)
北海道	1,791	108	6.0	108	1,162,724,118	10,765,964
神奈川	5,300	361	6.8	345	3,290,704,270	9,538,273
東京	29,413	3,141	10.7	2,858	11,477,453,265	4,015,904
愛知	3,835	239	6.2	238	2,378,400,006	9,993,277
京都	4,396	452	10.3	434	1,656,294,252	3,816,346
大阪	12,583	1,442	11.5	1,329	4,180,790,168	3,145,817
福岡	3,644	341	9.4	325	1,661,015,021	5,110,815

※ 東京、京都、大阪は幼稚園加入団体

からのお知らせ

奨学会

1. 令和5年度奨学生について

令和5年6月に定期募集を行うなど各学校のご協力を得て、新規に採用となった奨学生は、第1学年で559人、第2学年で66人、第3学年で40人、合計665人で、継続者と合わせた高等学校等に在学中の奨学生数は、1,593人となりました。なお、家計が急変し修学困難となった生徒に対しては、定期募集以外にも年間を通じて(緊急)採用をしています。(令和4年度採用者は8人)

令和5年度 奨学生の状況 (令和5年8月現在)

学 年	私 立	国・公立	合 計	(参考)貸付月額	
				右の額から希望額を選択。但し国・公立は25千円を限度。	10,000円 15,000円 20,000円 25,000円 30,000円 35,000円
第1学年	444人	115人	559人		
第2学年	393人	138人	531人		
第3学年	367人	136人	503人		
合計	1,204人	389人	1,593人		

2. 令和5年度入学資金貸付について

令和5年4月に道内私立高等学校(全日制)を対象に行った定期募集などにより計35人を採用しました。なお貸付額は20万円又は入学した高校の入学一時金のいずれか低い額となっています。

3. 奨学金及び入学資金貸付金の返還について

返還は、貸付終了後1年間据え置いて開始となります。返還状況の悪い方に対しては電話督促や訴訟等、種々の滞納対策を行っております。各学校におかれましても、奨学金及び入学資金貸付金の申込に当たっては返済について本人や父母と相談するとともに、卒業時には約束どおり遅れることなく返済することを指導する等、格別のご協力をお願いいたします。

私学事業団

令和4年度 特定健康診査等の実施結果及び学校訪問型特定保健指導のご案内

学校法人等からの特定健康診査結果データの提出協力による、加入者の特定健康診査の実施率は、前年度から0.6ポイント増の82.8%、また、受診券を送付している被扶養者等の実施率は前年度から1.5ポイント増の36.5%となったものの、加入者・被扶養者等ともに目標に対しては下回る結果となりました(表1)。

特定保健指導の加入者の実施率は、前年度から0.1ポイント減の7.5%、被扶養者等の実施率は前年度から1.5ポイント増の6.6%となったものの、加入者、被扶養者等ともに目標に対して下回る結果となりました(表2)。

特定保健指導はさまざまな受診スタイルがありますが、加入者の方向けに学校訪問型特定保健指導も実施しております。私学事業団が契約しているSOMPOヘルスサポート(株)の専門スタッフが学校法人等へ伺い、空き教室等をお借りして特定保健指導を実施します。指導対象となった加入者の移動時間や受診機関の予約の手間を省き、時間を有効活用できますので、加入者の健康管理にぜひお役立てください。

表1 特定健康診査の実施率

(単位:人)

区 分	a加入者	b被扶養者等	合計(a+b)
A 対象者数	332,344	98,250	430,594
B 実施者数	275,268	35,847	311,115
実施率(B/A)	82.8%	36.5%	72.3%
実施率目標	91.0%	55.0%	82.0%
目標差	△8.2%	△18.5%	△9.7%

表2 特定保健指導の実施率

(単位:人)

区 分	a加入者	b被扶養者等	合計(a+b)
A 対象者数	47,151	2,724	49,875
B 実施者数	3,518	180	3,698
実施率(B/A)	7.5%	6.6%	7.4%
実施率目標	26.0%	26.0%	26.0%
目標差	△18.5%	△19.4%	△18.6%

学校訪問型特定保健指導の実施に関するお問い合わせ先

SOMPOヘルスサポート(株) TEL 03(5209)8553 (平日10:00~12:00、14:00~17:00) 担当:平尾・松村

令和5年度・令和6年度の動き

【令和5年度】

4月 6日	北海道への緊急要請 (エネルギー価格等の高騰)
4月 11日	定期監査
4月 13日	第1回理事会、支部長会
4月 14日	第1回教育振興部会、第2回公私協
5月 9日	定例総会、懇親会
5月 16日	北海道私立中学高等学校保護者会連合会 役員会
6月 1~ 2日	令和5年度私学経営研修会
6月 3日	北海道私立中学高等学校保護者会連合会 理事会、定期総会、講演会、懇親会
6月 12日	私学団体連合会代表者・局長会議
6月 20日	第1回私学展担当者会議(オンライン)
6月 23日	第1回研修部会
7月 3日	全国生徒収容対策会議
7月 12日	第2回教育振興部会、第3回公私協
7月 13日	北海道議会教育振興議連との私学振興懇 話会(第1回)
7月 14日	初任者研修運営会議
7月 20日	令和6年度私立高等学校等政府予算に関 する中央要請
8月 9~ 10日	私立学校初任者研修北海道地区研修会
8月 21日	第1回経営管理部会
8月 25日	第2回理事会
9月 3日	北海道私立学校展
9月 7日	北海道総務部長との私学振興懇話会
9月 15日	北海道への緊急要請(熱中症対策)
9月 28日	第2回研修部会
10月 5~ 6日	理事長・理事・校長研修会
10月 6日	私立学校初任者研修地区運営委員全国会議
10月 12日	自民党道連団体政策懇談会
10月 14日	北海道私立中学高等学校保護者会連合会 第2回理事会
10月 26日	第2回私学展担当者会議(オンライン)
10月 30日	北海道社会貢献賞表彰式
11月 1日	私学振興全国大会
11月 9~ 10日	全国私学教育研究集会香川大会
11月 17日	日私学保連青少年育成研修会(岩手)
11月 20日	北海道教育長との私学振興懇話会
12月 13日	第3回研修部会
12月 13日	北海道議会教育振興議連との私学振興懇話会 (第2回)

12月 15日	第3回教育振興部会、第1回公私協
12月 19日	地域別公私立高等学校協議会(渡島)
12月 21日	地域別公私立高等学校協議会(石狩)
1月 4日	私学団体連合会新年互例会
1月 9日	地域別公私立高等学校協議会(後志)
1月 10日	私学振興に関する懇話会全道大会
1月 15日	地域別公私立高等学校協議会 (胆振東・西)
1月 17日	地域別公私立高等学校協議会 (オホーツク中)
1月 23日	地域別公私立高等学校協議会(宗谷)
1月 24日	地域別公私立高等学校協議会(上川南)
1月 29日	地域別公私立高等学校協議会(釧路)
1月 30日	地域別公私立高等学校協議会(十勝)
2月 13日	道立高等学校推薦入試
2月 15~ 16日	私立高等学校一般入試(A日程)
2月 20~ 21日	私立高等学校一般入試(B日程)
2月 22日	第4回研修部会
2月 26日	第4回教育振興部会
3月 5日	道立高等学校一般入試
3月 7日	第2回経営管理部会
3月 18日	道立高等学校一般入試合格発表
3月 25日	第3回理事会

【令和6年度 予定】

4月 12日	定期監査
4月 18日	第1回教育振興部会、第2回公私協
4月 19日	第1回理事会、支部長会
5月 8日	常任理事会、定例総会、懇親会
6月 1日	北海道私立中学高等学校保護者会連合会 理事会、総会、講演会、懇親会
6月 6~ 7日	令和6年度私学経営研修会
8月 8~ 9日	私立学校初任者研修北海道地区研修会
9月 1日	北海道私立学校展
9月 19~ 20日	テーマ別研修会(札幌)
10月 17~ 18日	理事長・理事・校長研修会(函館)
10月 31~ 11月 1日	全国私学教育研究集会大分大会
11月 6日	私学振興全国大会
11月 15日	日私学保連青少年育成研修会(東京)
1月 15日	私学振興に関する懇話会全道大会

北海道私立中学高等学校協会役職員名簿(令和5年度)

会 長	西岡 憲廣	西岡学園理事長 札幌山の手高等学校校長
副 会 長(研修部会・担当)	浅里 慎也	北星学園女子中学高等学校校長
// (経営管理部会・担当)	明上山勝己	札幌北斗学園理事長
// (教育振興部会・担当)	山崎 省一	北海学園専務理事
常任理事	浅里 慎也	北星学園女子中学高等学校校長
//	明上山勝己	札幌北斗学園理事長
//	山崎 省一	北海学園専務理事
理 事	堀水 享	北海道立正学園理事長
//	池田 延己	函館大妻学園理事長 函館大妻高等学校校長
//	苫米地 司	北海道科学大学理事長
// 札幌支部長	宮路 真人	札幌静修高等学校校長
// 函館支部長	高橋真理子	函館白百合学園中学校・高等学校校長
// 小樽支部長	倉内 慶一	小樽双葉高等学校校長
// 旭川支部長	山本 周男	旭川藤星高等学校校長
// 胆振支部長	山口 祐正	苫小牧中央高等学校校長
// 道東支部長	嶋野 幸也	白樺学園高等学校校長
監 事	永田 淑子	藤学園理事長
//	川口 淳	札幌龍谷学園高等学校校長
経営管理部会 部長	明上山勝己	札幌北斗学園理事長
委 員	堀水 享	北海道立正学園理事長
//	星川 定行	創成学園理事長
//	土家 康宏	清尚学院理事長
//	池田 延己	函館大妻学園理事長 函館大妻高等学校校長
//	浅利 剛之	札幌日本大学学園理事長
//	福島 基輝	札幌日本大学中学校・高等学校校長
//	苫米地 司	遺愛学院理事長 遺愛女子中学・高等学校校長
//		北海道科学大学理事長
教育振興部会 部長	山崎 省一	北海学園専務理事
委 員	宮路 真人	札幌静修高等学校校長
//	高橋真理子	函館白百合学園中学校・高等学校校長
//	倉内 慶一	小樽双葉高等学校校長
//	山本 周男	旭川藤星高等学校校長
//	山口 祐正	苫小牧中央高等学校校長
//	嶋野 幸也	白樺学園高等学校校長
研修部会 部長	浅里 慎也	北星学園女子中学高等学校校長
委 員	今城 慰作	北星学園大学附属高等学校校長
//	秋山 秀司	北海高等学校校長
//	橋本 達也	北海道科学大学高等学校校長
//	駒井健一郎	札幌光星中学校・高等学校校長
//	石川 直美	藤女子中学校・高等学校校長
//	清澤 城次	酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校校長
事務局 長	澁谷 恵補	
事務局次長	代田 透	
事務局 員	佐藤 直美	
//	稲葉 裕子	

お知らせ

令和6年度定例総会は 5月8日(水) に開催する予定です

発行 北海道私立中学高等学校協会

〒060-0001 札幌市中央区北1条西6丁目札幌ガーデンパレス5階

TEL 011-241-6651 FAX 011-242-2858

URL <https://www.doshigaku.jp>

MAIL jimukyoku01@doshigaku.jp

令和6年3月第30号発行（平成7年創刊）